



Cisco Unity Connection 電話インターフェイス ユーザ ガイド (リリース 15)

初版：2021 年 3 月 15 日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED “AS IS” WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NON-INFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at www.cisco.com/go/offices.

The documentation set for this product strives to use bias-free language. For purposes of this documentation set, bias-free is defined as language that does not imply discrimination based on age, disability, gender, racial identity, ethnic identity, sexual orientation, socioeconomic status, and intersectionality. Exceptions may be present in the documentation due to language that is hardcoded in the user interfaces of the product software, language used based on standards documentation, or language that is used by a referenced third-party product.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2021 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

第 1 章

Cisco Unity Connection のユーザ登録 1

登録について 1

ユーザとしての登録 2

第 2 章

電話を使用した Cisco Unity Connection の操作 3

Connection Conversation について 3

Connection のカンバセーションでの電話のキーパッドの使用 4

Connection のカンバセーションでのボイス コマンドの使用 4

第 3 章

ボイスメールの基本 7

Cisco Unity Connection へのコール 7

メッセージの送信 8

電話のキーパッドを使用したボイス メッセージの送信 8

ボイス コマンドを使用したボイス メッセージの送信 9

メッセージの確認 10

電話のキーパッドを使用したメッセージの確認 11

ボイス コマンドを使用したメッセージの確認 11

メッセージへの返信 13

電話のキーパッドを使用したボイス メッセージへの返信 13

ボイス コマンドを使用したボイス メッセージへの返信 13

転送メッセージ 14

電話のキーパッドを使用したメッセージの送信 14

ボイス コマンドを使用したメッセージの転送 15

受信確認の管理 16

電話のキーパッドを使用した受信確認の管理 17

ボイス コマンドを使用した受信確認の管理 17

第 4 章

メッセージの検索 19

メッセージの検索について 19

メッセージ ロケータ オプションを使用したメッセージの検索 19

電話のキーパッドを使用したメッセージ ロケータでのメッセージの検索 20

Phone View オプションを使用したメッセージの検索 20

電話のキーパッドを使用した Phone View でのメッセージの検索 21

ボイス コマンドを使用した Phone View でのメッセージの検索 22

メッセージ ジャンプ オプションを使用したメッセージの検索 23

電話のキーパッドを使用したメッセージ ジャンプでのメッセージの検索 23

第 5 章

削除されたメッセージの管理 25

削除されたメッセージについて 25

削除されたメッセージの完全な削除 25

電話のキーパッドを使用したメッセージの完全削除 25

ボイス コマンドを使用したメッセージの完全削除 26

削除されたメッセージの確認 26

電話のキーパッドを使用した削除されたメッセージの確認 26

ボイス コマンドを使用した削除されたメッセージの確認 27

第 6 章

ディスパッチ メッセージの管理 29

ディスパッチ メッセージについて 29

ディスパッチ メッセージへの応答 29

電話のキーパッドを使用したディスパッチ メッセージの管理 30

ボイス コマンドを使用したディスパッチ メッセージの管理 30

第 7 章

ボイス コマンドによる電話の発信 33

ボイス コマンドによる電話の発信について 33

ボイス コマンドを使用した電話の発信 33

第 8 章

会議の管理 35

会議の管理について 35

予定されている会議の一覧表示 35

電話のキーパッドを使用した予定されている会議の一覧表示 36

ボイス コマンドを使用した予定されている会議の一覧表示 36

Cisco Unified MeetingPlace での即時会議の開始 37

電話のキーパッドを使用した即時会議の開始 37

ボイス コマンドを使用した即時会議の開始 37

第 9 章

パーソナル グリーティングの管理 39

パーソナル グリーティングについて 39

現在のグリーティングの再録音 41

電話のキーパッドを使用した現在のグリーティングの再録音 41

電話でボイス コマンドを使用した現在のグリーティングの再録音 41

オプション グリーティングのオンまたはオフ 42

電話のキーパッドを使用したオプション グリーティングのオンまたはオフ 42

ボイス コマンドを使用したオプション グリーティングのオンまたはオフ 42

グリーティングの変更 43

電話のキーパッドを使用したグリーティングの変更 43

ボイス コマンドを使用したグリーティングの変更 44

すべてのグリーティングの再生 45

電話のキーパッドを使用したすべてのグリーティングの再生 45

ボイス コマンドを使用したすべてのグリーティングの再生 45

多言語システムでの追加言語のグリーティングの録音 45

電話のキーパッドを使用した追加言語のグリーティングの録音 46

ボイス コマンドを使用した追加言語のグリーティングの録音 46

第 10 章

メッセージの到着通知の管理 47

メッセージ通知の説明 47

デバイスへの通知のオンまたはオフ 47

電話のキーパッドを使用したデバイスへの通知のオンまたはオフ	47
ボイス コマンドを使用したデバイスへの通知のオンまたはオフ	48
通知先電話番号の変更	48
電話のキーパッドを使用した通知先電話番号の変更	48
ボイス コマンドを使用した通知先電話番号の変更	49

第 11 章

プライベート リストの処理 51

プライベート同期リストの説明	51
プライベート同報リストの作成	51
電話のキーパッドを使用したプライベート同報リストの作成	52
ボイス コマンドを使用したプライベート同報リストの作成	52
プライベート同報リストのメンバーの変更	53
電話のキーパッドを使用したプライベート同報リストのメンバーの変更	53
ボイス コマンドを使用したプライベート同報リストのメンバーの変更	54
プライベート同報リストの録音名の変更	54
電話のキーパッドを使用したプライベート同報リストの録音名の変更	54
ボイス コマンドを使用したプライベート同報リストの録音名の変更	55
プライベート同報リストの削除	55

第 12 章

アドレス指定優先順位リストの管理 57

アドレス指定優先順位リストについて	57
アドレス指定優先順位リストの変更	57
電話のキーパッドを使用したアドレス指定優先順位リストの変更	58
ボイス コマンドを使用したアドレス指定優先順位リストの変更	58

第 13 章

ユーザ設定の変更 59

ユーザ設定について	59
PIN の変更	59
電話キーパッドを使用した暗証番号の変更	60
ボイス コマンドを使用した暗証番号の変更	60
録音名の変更	60

電話のキーパッドを使用した録音名の変更	61
ボイス コマンドを使用した録音名の変更	61
ディレクトリ登録ステータスの変更	61
電話のキーパッドを使用したディレクトリ一覧ステータスの変更	61
ボイス コマンドを使用したディレクトリ一覧ステータスの変更	62
代替デバイスの変更	62
電話キーパッドを使用した代替デバイスの変更	63
ボイス コマンドを使用した代替デバイスの変更	63

第 14 章

Connection Conversation メニュー スタイルの選択 65

Connection Conversation メニュー スタイルについて	65
Connection カンバセーションのメニュー スタイルの変更	65
電話のキーパッドを使用した Connection カンバセーションのメニュー スタイルの変更	65
ボイス コマンドを使用した Connection カンバセーションのメニュー スタイルの変更	66

第 15 章

着信転送ルールの管理 67

着信転送ルールの説明	67
コール転送ルールに関する設定の変更	68
電話のキーパッドを使用した着信転送ルールの設定の変更	68
ボイス コマンドを使用した着信転送ルールの設定の変更	68

第 16 章

緊急連絡先番号の管理 71

緊急連絡先番号について	71
緊急連絡先番号の変更	71
電話のキーパッドを使用した緊急連絡先番号の指定	71
ボイス コマンドを使用した緊急連絡先番号の指定	72

第 17 章

着信コールを処理するパーソナル着信転送ルールの設定の管理 73

パーソナル着信転送ルールの設定について	73
基本転送ルールにおけるパーソナル着信転送ルールの設定の有効化と無効化	73

電話のキーパッドを使用した基本転送ルールでのパーソナル着信転送ルールの設定の使用の有効化または無効化	74
ボイス コマンドを使用した基本転送ルールでのパーソナル着信転送ルールの設定の使用の有効化または無効化	74
パーソナル着信転送ルール設定の使用の有効化と無効化	74
電話のキーパッドを使用したパーソナル着信転送ルールの設定の使用の有効化または無効化	75
ボイス コマンドを使用したパーソナル着信転送ルールの設定の使用の有効化または無効化	75
個々のルール設定の有効化と無効化	75
電話のキーパッドを使用したルール設定の有効化	76
ボイス コマンドを使用したルール設定の有効化	76
電話のキーパッドを使用したルール設定の無効化	76
ボイス コマンドを使用したルール設定の無効化	77
[全て転送 (Transfer All)] ルール設定の使用	77
電話のキーパッドを使用した [全て転送 (Transfer All)] ルール設定の有効化	77
ボイス コマンドを使用した [全て転送 (Transfer All)] ルール設定の有効化	78
電話のキーパッドを使用した [全て転送 (Transfer All)] ルール設定の無効化	78
ボイス コマンドを使用した [全て転送 (Transfer All)] ルール設定の無効化	79
すべての着信の Cisco Unity Connection への転送	79
電話のキーパッドを使用した Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送	79
ボイス コマンドを使用した Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送	80
電話のキーパッドを使用した Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送のキャンセル	80
ボイス コマンドを使用した Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送のキャンセル	80
第 18 章	再生設定の変更 83
	再生設定について 83
	個々のメッセージの再生音量の変更 83
	電話のキーパッドを使用した個々のメッセージの再生音量の変更 84
	ボイス コマンドを使用した個々のメッセージの再生音量の変更 84

個々のメッセージの再生速度の変更	84
電話のキーパッドを使用した個々のメッセージの再生速度の変更	84
ボイス コマンドを使用した個々のメッセージの再生速度の変更	85
Connection カンバセーションの再生音量の変更	85
ボイス コマンドを使用したカンバセーション再生音量の変更	85
Connection カンバセーションの再生速度の変更	86
ボイス コマンドを使用したカンバセーション再生速度の変更	86

第 19 章

ブロードキャストメッセージ 87

ブロードキャスト メッセージについて	87
--------------------	----

第 20 章

メールボックスのサイズの管理 89

メールボックスのサイズについて	89
メールボックスがすぐに一杯になってしまう理由	89

第 21 章

Cisco Unity Connection 電話メニューとボイス コマンド 91

電話メニューとボイス コマンド テーブルについて	91
標準カンバセーション用電話メニュー	91
クラシック カンバセーション用電話メニュー	96
オプション カンバセーション 1 用電話メニュー	101
代行キーパッド マッピング N 用電話メニュー	106
代行キーパッド マッピング X 用電話メニュー	108
代行キーパッド マッピング S 用電話メニュー	111
ボイス コマンド	114
ビデオメッセージと電話メニュー	120

第 22 章

ビデオメッセージの管理 123

ビデオメッセージの送信	123
電話のキーパッドを使用したビデオメッセージの送信	123
ビデオメッセージの確認	124
電話のキーパッドを使用したビデオメッセージの送信	124



第 1 章

Cisco Unity Connection のユーザ登録

- [登録について \(1 ページ\)](#)
- [ユーザとしての登録 \(2 ページ\)](#)

登録について

Cisco Unity Connection を使用するときには、まず、電話を使用してユーザ登録を行います。通常、Connection がセットアップされると、初めてシステムを呼び出したときに初回登録ガイダンスが再生されます。

初回登録ガイダンスは、あらかじめ録音された一連のプロンプトであり、このガイダンスに従って次のタスクを実行します。

- 名前を録音します。
- 電話に出られないときに外部発信者に流すグリーティングを録音します。
- 暗証番号を変更します。
- 電話帳に登録するかどうかを選択します（ユーザがディレクトリに登録されていると、ユーザの内線番号を知らない発信者は、ユーザの名前を入力するか発音することによってユーザに到達できます）。

通常、Connection 管理者は、ID（通常はユーザの内線番号）と一時的な暗証番号を割り当てます。

登録が完了した後はいつでも、名前およびグリーティングを再録音でき、また、暗証番号の変更およびディレクトリ一覧ステータスの変更ができます。

関連トピック

- [ユーザとしての登録 \(2 ページ\)](#)

ユーザとしての登録

ステップ 1 社内の自分の電話、社内の別の電話、または社外の電話から該当する電話番号をダイヤルして、Cisco Unity Connection を呼び出します。

ステップ 2 社内の別の電話または社外の電話から電話している場合は、Connection の応答後、*（スターキー）を押してください。

ステップ 3 プロンプトに従って対応します。登録時には、Connection のドキュメントを参照する必要はありません。登録処理が完了した場合は、システムからそのことが通知されます。

登録が完了する前に電話を切った場合は、次回 Connection にログインすると、初回登録カンバセーションが再度再生されます。

関連トピック

[登録について](#) (1 ページ)



第 2 章

電話を使用した Cisco Unity Connection の操作

- [Connection Conversation](#) について (3 ページ)
- [Connection](#) のカンバセーションでの電話のキーパッドの使用 (4 ページ)
- [Connection](#) のカンバセーションでのボイス コマンドの使用 (4 ページ)

Connection Conversation について

電話で Cisco Unity Connection にアクセスすると、[Connection](#) のカンバセーションが再生されます。メッセージの送受信、グリーティングの録音、個人設定の変更を行う際には、録音された指示とプロンプトに従います。[Connection](#) へのアクセスには、任意の電話を使用できます。

電話を介して [Connection](#) を使用方法には次の 2 つがあります。

電話のキーパッド	電話のキーパッドでキーを押します。 両手を空けておく必要がない場合、雑音が多い環境にいる場合、またはより多くの Connection 機能オプションを使用する場合は、このオプションを使用します。
ボイス コマンド	電話の受話器、ヘッドセット、またはスピーカーフォンに向かって発声します。 両手を空けた状態で Connection システムにアクセスする必要がある場合は、このオプションを使用します。



- (注) 一部の TTY 電話（テキスト電話）には、適切なトーンを送信する機能が備わっていません。その場合、TTY ユーザは [Connection](#) のカンバセーションを操作する際に、電話のキーパッドを使用することが必要になる場合があります。

Connection のカンバセーションでの電話のキーパッドの使用

Connection のカンバセーションにはいくつかのバージョンがあり、それぞれ Connection メニュー オプションとキーパッドのマッピングが異なります（たとえば、あるバージョンではメッセージを削除するのに 3 を押しますが、別のバージョンではメッセージを削除するのに 7 を押すことがあります）。

ユーザに対して再生されるカンバセーションのバージョンは、Connection 管理者が決定します。通常は、ユーザが使い慣れているキーパッド マッピングが設定されたカンバセーションを管理者が選択します。どのカンバセーションを使うよう設定されているかについては、Connection の管理者に問い合わせてください。

関連トピック

[Cisco Unity Connection 電話メニューとボイス コマンド](#) (91 ページ)

Connection のカンバセーションでのボイス コマンドの使用

Cisco Unity Connection には、Connection のカンバセーションで行う動作を音声で伝えることができる音声認識オプションがあります。ボイス コマンドは直感的であり、使いやすく、大部分のボイス メッセージ タスクに利用できます。

使用できるボイス コマンドについては、『*User Guide for the Cisco Unity Connection Phone Interface*』の手順を参照してください。また、任意の時点で「Help」と発音すると、各メニューについての詳細情報を入手できます。

メイン メニューで、「Tutorial」と発音すると、ボイス コマンドを使用した作業に関する一連のチュートリアルにアクセスできます。

カンバセーションの大部分において、コマンドを発音できます。システムのプロンプトが終了するまで待つ必要はありません。また、実行する作業を正確に把握している場合は、タスクを完了するためにメニュー階層を移動する必要はなく、複雑なコマンドを音声で伝えることができます。たとえば、メイン メニューで「Send a private and urgent message to Tina Chen」と発音できます。

コマンドを音声で伝えにくい場合や、システムでコマンドが認識されない場合（雑音の多い環境で携帯電話を使用している場合など）は、残りのコマンドを使用するための電話キーパッドだけの使用に切り替えることができます。ボイス コマンドをオフにする場合は、「Touchtone conversation」と発音するか、メイン メニューの該当するキーを押します。キーについては、Connection 管理者に問い合わせるか、「Touchtone command Help」と発音できます。ボイス コマンドを使用する方法に戻すには、電話を切り、Connection に再度ログインします。

選択コマンドについては、ボイス コマンドをオフにせずに、該当するキーを押します。コマンドおよび対応するキーについては、Connection 管理者に問い合わせるか、「Touchtone command Help」と発音できます。

音声認識オプションが使用可能かどうかについては、Connection 管理者に問い合わせてください。

関連トピック

[ボイス コマンド](#) (114 ページ)



第 3 章

ボイスメールの基本

- [Cisco Unity Connection へのコール](#) (7 ページ)
- [メッセージの送信](#) (8 ページ)
- [メッセージの確認](#) (10 ページ)
- [メッセージへの返信](#) (13 ページ)
- [転送メッセージ](#) (14 ページ)
- [受信確認の管理](#) (16 ページ)

Cisco Unity Connection へのコール

Cisco Unity Connection は、社内の自分専用の電話、社内の別の電話、または社外の電話から呼び出すことができます。

ステップ 1 適切な電話番号をダイヤルして Connection を呼び出します。

ステップ 2 社内の別の電話または社外の電話から電話している場合は、Connection の応答後、*（スターキー）を押してください。

ステップ 3 指示に従って ID を入力し、#（ポンドキー）を押します。

ステップ 4 Connection 暗証番号を入力し、#を押します。

（注） 音声認識オプションを使用している場合は、Connection で暗証番号を発音で入力するか、電話のキーパッドで入力するかを尋ねられる場合があります。暗証番号を発音で入力するには、1 桁ずつ発音します。1 回目の試みで Connection が暗証番号を認識できない場合は、キーパッドで暗証番号を入力する必要があります（セキュリティ上の理由により、暗証番号は音声で入力するよりも電話のキーパッドで入力の方が安全ですが、このオプションはいつでも使用できます）。

メッセージの送信

改訂：2016年6月7日

ボイスメッセージは、内線番号をダイヤルすることなく、他の Cisco Unity Connection ユーザに送信できます。相手の邪魔をしたくない場合や、電話で会話をする時間がない場合は、ボイスメッセージを使用すると便利です。また、ボイスメッセージは、電子メールで伝わりにくい用件を伝達する場合にも役立つことがあります。

ボイスメッセージでは、1人または複数の受信者、プライベート同報リスト、およびシステム同報リストを宛先として指定できます。メッセージの宛先を指定するには、使用するインプットスタイルに応じて、Connection ユーザまたは同報リストの名前を発音するか、電話のキーパッドを使用してユーザまたはリストの名前、あるいは内線番号またはリスト番号を入力します。

次の特別な送信オプションが利用できます。

緊急	メッセージに緊急のマークを付けて、Connection がそのメッセージを通常メッセージの前に送信するようにします。
受信確認の返信	<p>受信確認を要求して、受信者がメッセージを開いたときに Connection が発信者に通知するようにします。</p> <p>(注) 受信者および自身のボイスメールアカウントの設定に応じて、要求に対して返信確認を受け取る/受け取らないように設定できます。返信確認を受け取る場合は、ボイスメールアカウントの設定に応じて、開封確認または送信確認が可能です。</p>
プライベート	メッセージをプライベートにして、受信者にメッセージを機密情報として取り扱う必要があることを通知します。Connection ユーザはプライベートメッセージを電話で転送できません。
Future delivery	指定した将来の日時にメッセージを配信します。

音声メッセージに加えて、電話キーパッドのみを使用して、呼出音に応答しない場合 (RNA)、特定されているユーザまたは識別できないユーザのビデオメッセージを録音することもできます。

電話のキーパッドを使用したボイスメッセージの送信

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[メッセージを送信 (Send a Message)] オプションを選択します。

ステップ 3 プロンプトに従って、メッセージの録音、宛先指定、および送信を行います。

録音を一時停止または再開するには、**8**を押します。録音を終了するには、**#**を押します。

- ヒント
- メッセージの宛先の指定中、**##**を押すと名前の入力と番号の入力が切り替わります。
 - メッセージの宛先としてプライベート同報リストを指定する場合、番号入力を使用してリストの番号を入力するか、名前入力を使用して名前を入力します（そのリストに **Messaging Assistant Web** ツールでの表示名がある場合）。
 - 宛先を指定するための入力に複数のユーザが一致した場合、一致したユーザのリストが再生されます。リスト内は簡単に移動できます。リストから受信者を選択するには **#**を押します。前の名前に戻るには **7**を押します。次の名前に進むには **9**を押します。リストの先頭に戻るには **77**を押します。リストの最後に進むには **99**を押します。

ボイス コマンドを使用したボイス メッセージの送信

ステップ 1 コールをして **Connection** にログインします。

ステップ 2 **Connection** で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Senda message」。

ヒント 録音する前にメッセージの宛先を設定する場合や、メッセージプロパティを指定する場合は、ここで発音します。例：「Send an urgent message to Tim Smith」または「Send a private message」。

ステップ 3 メッセージを録音します。終了後、**#**を押すか、数秒間無音の状態にします。
録音を一時停止または再開するには、**8**を押します。

ステップ 4 指示に従って、メッセージ受信者の名前を発音します。

Connectionが意図しない受信者を追加した場合は、「Remove」と発音して最後に追加された受信者を削除するか、「Editrecipients」と発音して他の受信者を削除します。

メッセージの作成が完了したら、「Done」と発音します。

- ヒント
- すばやく宛先を指定するには、**Connection** による確認メッセージが終了する前に、次の受信者の名前を発音します。
 - 受信者を追加するために一時的に電話のキーパッドを使用するように切り替えるには、**9**を押します。受信者を追加すると、**Connection** は音声認識モードに戻ります。

ステップ 5 指示に従い、次のボイス コマンドを使用してメッセージを終了します。

操作	ボイス コマンド
メッセージを送信する	「Send」
メッセージ受信者のリストを確認または編集する	「Edit recipients」

操作	ボイス コマンド
他の受信者を追加する	「Add names」
録音されたメッセージを編集する	「Change recording」
メッセージのプロパティを確認する	「Review message properties」
メッセージに緊急のマークを付ける	「Mark urgent」
メッセージにプライベートのマークを付ける	「Mark private」
メッセージに緊急およびプライベートのマークを付ける	「Mark urgent and private」
メッセージに受信確認を設定する	「Return receipt」
将来の日時にメッセージを配信する メッセージをいつ配信すればよいかを Connection で尋ねられたら、「Today」、「Tomorrow」、曜日、または暦日と時刻を発音します。将来の配信キューにメッセージを入れる準備ができたなら、「Send」と発音する必要があります。	「Future delivery」
将来の配信をキャンセルする	「Cancel future delivery」
録音されたメッセージおよびメッセージ プロパティを確認する	「Review message」

メッセージの確認

改訂：2010 年 11 月 16 日

電話を使用して、Cisco Unity Connection メールボックスの新規メッセージと開封済みメッセージ、電子メールアプリケーションのメッセージを確認できます。

メッセージは、メッセージの再生中に、またはメッセージ全体を聞き終えた後で保存または削除できます。

メッセージ保存ポリシーを適用するようにシステムが設定されているかどうかを Connection の管理者に確認し、そのように設定されている場合は、メッセージが完全に削除されるまでの期間を確認してください（Connection は、メッセージ保存ポリシーが適用されることを通知しません。また、このポリシーを実行した結果、メッセージが完全に削除されることも警告しません）。



- (注) ユーザが Unity Connection にログインすると、ユーザは、RNA シナリオによって、ユーザまたは外部の発信者から受信したビデオメッセージのみを再生できます。ユーザに対してビデオメッセージが有効になっていても、ユーザはビデオメッセージを作成できません。

電話のキーパッドを使用したメッセージの確認

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メイン メニューで該当するメニュー オプションを選択します。

オプション	説明
[新規メッセージを再生 (Play New Messages)]または[古いメッセージを確認 (Review Old Messages)]	Connection メールボックスのメッセージ
外部電子メール メッセージ (Play External Messages)	電子メール アプリケーションのメッセージ

ステップ 3 プロンプトに従って、メッセージを聞いて処理します。

ボイス コマンドを使用したメッセージの確認

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「PlayMessages」。Connection によって Connection メールボックスにある新しいメッセージと開封済みメッセージの合計数が通知され、新しいすべてのボイス メッセージ、電子メール、受信者が再生されます。その後に開封済みのメッセージが再生されます。

または

聞きたいメッセージのタイプを選択するには、次のコマンドを使用します。

操作	ボイス コマンド
新規および開封済みのボイス メッセージ、電子メール、外部メッセージ、または受信確認を再生する (Connection の設定状況によっては、一部のメッセージ タイプで受信確認を受け取ることができない場合があります)	「Play <voice messages/emails/external messages/receipts>」
すべての新規メッセージを再生する	「Play new messages」

操作	ボイス コマンド
Connection ユーザからの新しいボイス メッセージ、開封済みボイス メッセージ、または削除されたボイス メッセージを再生する	「Play <new/saved/deleted> messages from <name of user>」
開封済みのボイス メッセージ、電子メール、外部メッセージ、または受信確認を再生する (Connection の設定状況によっては、一部のメッセージ タイプで受信確認を受け取ることができない場合があります)	「Play saved <voice messages/emails/external messages/receipts>」
すべての開封済みメッセージを再生する	「Play saved messages」
削除されたボイス メッセージ、電子メール、または受信確認を再生する (Connection の設定状況によっては、一部のメッセージ タイプで受信確認を受け取ることができない場合があります)	「Play deleted <voice messages / emails / receipts>」
削除されたメッセージをすべて再生する (一部のシステムでは使用不可)	「Play deleted messages」

ステップ 3 メッセージの開き取り後にメッセージを管理するには、指示に従って次のボイス コマンドを使用します。

操作	ボイス コマンド
再度メッセージを再生する	「Repeat」
前のメッセージの再生	「Previous」
次のメッセージの再生	「Next」
開封済みメッセージとして保存/復元する	「Save」
メッセージの削除	「Delete」
メッセージへの返信	「Reply」
全員に返信する	「Reply all」
元のメッセージを再送する（不達受信確認に限定）	「Resend」
メッセージの送信者を呼び出す (一部のシステムでは使用不可)	「Call sender」
メッセージの転送	「Forward」
新規メッセージとして保存/復元する	「Mark new」
メッセージの巻き戻し	該当なし

操作	ボイス コマンド
印刷のためにファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	「Fax」
メッセージプロパティを再生	「Message properties」

メッセージへの返信

メッセージに返信する場合は、送信者だけに返信するか、送信者および他のすべての受信者に返信するかを選択できます。また、受信者を追加することもできます。元のメッセージを再送信することによって、不達確認（NDR）メッセージに返信することもできます。

「Cisco Unity Connection Messaging System」からのメッセージは、発信者が Connection ユーザでないか、またはメッセージを残したときにユーザとしてログインしていなかったことを意味します。そのような発信者からのメッセージには返信できません。

電話のキーパッドを使用したボイス メッセージへの返信

- ステップ 1** メッセージの再生後、[返信（Reply）] または [全員に返信（Reply to All）] メニューオプションを選択します。
- ステップ 2** 指示に従って、録音、受信者の追加、返信を行います。
- 録音を一時停止または再開するには、**8** を押します。録音を終了するには、**#** を押します。
- ステップ 3** 返信後、指示に従って元のメッセージを処理します。

ボイス コマンドを使用したボイス メッセージへの返信

- ステップ 1** メッセージの聞き取り後、次のように言います。
- 送信者に返信するには、「Reply」と発音します。
- または
- 送信者およびすべてのメッセージ受信者に返信するには、「ReplyAll」と発音します。
- ステップ 2** 返信を録音します。録音を一時停止または再開するには、**8** を押します。
- 終了後、**#** を押すか、数秒間無音の状態にします。

ステップ3 指示に従って、次のボイス コマンドを使用して返信を終了します。

操作	ボイス コマンド
メッセージを送信する	「Send」
メッセージ受信者のリストを確認または編集する	「Edit recipients」
他の受信者を追加する	「Add names」
録音されたメッセージを編集する	「Change recording」
メッセージのプロパティを確認する	「Review message properties」
メッセージに緊急のマークを付ける	「Mark urgent」
メッセージにプライベートのマークを付ける	「Mark private」
メッセージに緊急およびプライベートのマークを付ける	「Mark urgent and private」
メッセージに受信確認を設定する	「Return receipt」
将来の日時にメッセージを配信する メッセージをいつ配信すればよいかを Connection で尋ねられたら、「Today」、「Tomorrow」、曜日、または暦日と時刻を発音します。将来の配信キューにメッセージを入れる準備ができたなら、「Send」と発音する必要があります。	「Future delivery」
将来の配信をキャンセルする	「Cancel future delivery」
録音されたメッセージおよびメッセージ プロパティを確認する	「Review message」

ステップ4 返信後、指示に従って元のメッセージを処理します。

転送メッセージ

プライベートとしてマークされたメッセージは電話機で転送できません。このメッセージには、Connection ユーザがプライベートのマークを付けたボイス メッセージも含まれます。

電話のキーパッドを使用したメッセージの送信

ステップ1 メッセージの再生後、[メッセージの転送 (Forward the Message)] オプションを選択します。

ステップ2 指示に従って、音声コメントの録音、宛先の指定、転送されたメッセージの送信を行います。

録音を一時停止または再開するには、**8** を押します。録音を終了するには、**#** を押します。

ヒント

- メッセージの宛先の指定中、## を押すと名前の入力と番号の入力が切り替わります。
- メッセージの宛先としてプライベート同報リストを指定する場合、番号入力を使用してリストの番号を入力するか、名前入力を使用して名前を入力します（そのリストに Messaging Assistant Web ツールでの表示名がある場合）。
- 宛先を指定するための入力に複数のユーザが一致した場合、一致したユーザのリストが再生されます。リスト内は簡単に移動できます。リストから受信者を選択するには # を押します。前の名前に戻るには 7 を押します。次の名前に進むには 9 を押します。リストの先頭に戻るには 77 を押します。リストの最後に進むには 99 を押します。

ステップ 3 転送するメッセージを送信後、指示に従って元のメッセージを処理します。

ボイス コマンドを使用したメッセージの転送

ステップ 1 メッセージの再生後、「Forward」と発音します。

ステップ 2 必要に応じて、転送するメッセージに音声コメントを録音します。録音を一時停止または再開するには、8 を押します。

終了後、# を押すか、数秒間無音の状態にします。

ステップ 3 指示に従って、メッセージ受信者の名前を発音します。

Connection が意図しない受信者を追加した場合は、「Remove」と発音して最後に追加された受信者を削除するか、「Edit recipients」と発音して他の受信者を削除します。

メッセージの作成が完了したら、「Done」と発音します。

ヒント

- すばやく宛先を指定するには、Connection による確認メッセージが終了する前に、次の受信者の名前を発音します。
- 受信者を追加するために一時的に電話のキーパッドを使用するように切り替えるには、9 を押します。受信者を追加すると、Connection は音声認識モードに戻ります。

ステップ 4 指示に従って、次のボイス コマンドを使用して転送メッセージを終了します。

操作	ボイス コマンド
メッセージを送信する	「Send」
メッセージ受信者のリストを確認または編集する	「Edit recipients」
他の受信者を追加する	「Add names」
録音されたメッセージを編集する	「Change recording」
メッセージのプロパティを確認する	「Review message properties」

操作	ボイス コマンド
メッセージに緊急のマークを付ける	「Mark urgent」
メッセージにプライベートのマークを付ける	「Mark private」
メッセージに緊急およびプライベートのマークを付ける	「Mark urgent and private」
メッセージに受信確認を設定する	「Return receipt」
将来の日時にメッセージを配信する メッセージをいつ配信すればよいかを Connection で尋ねられたら、「Today」、「Tomorrow」、曜日、または暦日と時刻を発音します。将来の配信キューにメッセージを入れる準備ができれば、「Send」と発音する必要があります。	「Future delivery」
将来の配信をキャンセルする	「Cancel future delivery」
録音されたメッセージおよびメッセージ プロパティを確認する	「Review message」

ステップ 5 転送するメッセージを送信後、指示に従って元のメッセージを処理します。

受信確認の管理

改訂：2010 年 11 月 16 日

Cisco Unity Connection を使用するときには、次のタイプの受信確認を管理できます。

Read	受信者がメッセージを再生すると、通知される受信確認メッセージ。
配信	メッセージを目的の受信者に配信した場合に、通知される受信確認メッセージ。
不達	メッセージを目的の受信者に配信できなかった場合に、通知される受信確認メッセージ。

Connection の電話インターフェイスでは、返信確認のみ要求できますが、電子メール アプリケーションを使用すると、開封確認または送信確認を要求できます。受信者および自身のボイスメール アカウントの設定に応じて、要求に対して受信確認を受け取る/受け取らないように設定できることに注意してください。受信要求に対して受信確認を受け取る場合は、ボイスメール アカウントの設定に応じて、開封確認または送信確認が可能です。

メッセージを確認する場合、Connection はその他のメッセージとともに受信確認を再生します。他のメッセージと同じ方法で受信確認を再生して削除します。返信または転送はできません。

開封受信確認では、送信したメッセージを再生した受信者のリストが Connection によって再生されます。不達確認（NDR）では、Connection によって、メールボックスでメッセージを受信しなかった受信者が示されます。

Connection が NDR を再生した後は、元のメッセージを再生し、それを受信できなかった受信者に再送できます。メッセージを再送するときに、コメントを録音したり、受信者リストを変更したり、配信オプションを変更したりすることができます。メッセージを再送すると、自動的に Connection によって NDR が削除されます。

電話のキーパッドを使用した受信確認の管理

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[新規メッセージを再生（Play New Messages）]、[受信確認（Receipts）]オプションの順に選択します。

ステップ 3 指示に従って、受信確認を管理します。

ボイス コマンドを使用した受信確認の管理

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「PlayReceipts」。この場合、Connection は、受信確認の合計数を通知してから、受信確認を再生します。
または

「Play <new/saved/deleted> receipts」この場合、Connection は、条件を満たす受信確認数を通知してから、受信確認を再生します。

ステップ 3 受信確認の聞き取り後に受信確認を管理するには、指示に従って次のボイス コマンドを使用します。

操作	ボイス コマンド
再度受信確認を再生する	「Repeat」
開封済みメッセージとして保存/復元する	「Save」
受信確認を削除する	「Delete」
元のメッセージを再送する（NDR に限る）	「Resend」
新規メッセージとして保存する	「Mark new」
受信確認を巻き戻す	（コマンドは利用できません）
受信確認プロパティを再生する	「Message properties」

操作	ボイス コマンド
元のメッセージを再生する（NDR に限る）	「Play original message」



第 4 章

メッセージの検索

- [メッセージの検索について \(19 ページ\)](#)
- [メッセージ ロケータ オプションを使用したメッセージの検索 \(19 ページ\)](#)
- [Phone View オプションを使用したメッセージの検索 \(20 ページ\)](#)
- [メッセージ ジャンプ オプションを使用したメッセージの検索 \(23 ページ\)](#)

メッセージの検索について

Cisco Unity Connection には、電話でメッセージを検索するためのオプションが 3 つあります。

メッセージ ロケータ	検索基準に基づいて、新しいボイス メッセージおよび開封済みボイス メッセージを検索できます。
Phone View	検索基準に基づいて、新しいボイス メッセージおよび開封済みボイス メッセージを検索でき、結果は Cisco IP 電話の画面に表示されます。
メッセージ ジャンプ	メッセージ番号に基づいて、開封済みメッセージを検索できます。

これらのオプションの一部は使用できない場合があります。Connection 管理者に問い合わせてください。

メッセージ ロケータ オプションを使用したメッセージの検索

メッセージ ロケータでは、ユーザ名または内線番号を入力することにより、特定のユーザからのボイス メッセージを検索します。また、外部からのすべての発信者のボイス メッセージや、特定の番号からかけた発信者のメッセージを検索することもできます。

入力する条件に基づいて、Cisco Unity Connection はメッセージが検出されると、再生を開始します。デフォルトでは、未再生か再生済みかにかかわらず、メッセージは新しいものから順に示されます。ただし、Connection の管理者がこの再生順序を変更する場合があります。

電話のキーパッドを使用したメッセージロケータでのメッセージの検索

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 ボイス コマンドを使用していない場合は、ステップ 3 に進みます。

ボイス コマンドを使用している場合は、「Touchtoneconversation」と発音するか、**9**を押して、インプットスタイルを一時的に電話のキーパッドに切り替えます。

ヒント メッセージロケータの使用後にインプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、電話を切り、Connection に再度ログインします。

ステップ 3 メイン メニューで、[メッセージの検索 (Find Messages)] オプションを選択します。

ステップ 4 探しているボイス メッセージを検索して管理するには、適切なオプションを選択して指示に従います。

オプション	説明
別のユーザから	指示に従って、電話のキーパッドでユーザ名またはユーザの内線番号を入力します。名前への入力と番号への入力を切り替えるには、 ## を押します。
外部のすべての発信者から	Connection は、身元不明発信者からのメッセージを検索します。これには、外部からの発信者と、外部の電話またはユーザ アカウントに関連付けられていない電話（会議室など）からかける前に Connection にログインしていないユーザが含まれます。
特定の外部発信者から	指示に従い、電話のキーパッドを使用して発信者の電話番号をすべてまたは一部入力し、その後には # を付けます。 (注) 一部の発信者の電話番号の先頭には、国コードや市外局番などが追加されている場合があります。すべての発信者の番号がシステムに保存されているとは限りません。特定の発信者からのメッセージが見つからない場合は、Connection 管理者に問い合わせてください。

Phone View オプションを使用したメッセージの検索

Phone View を使用すると、Cisco IP 電話の画面にボイス メッセージの送信者、日付、時刻が表示されます。検索条件を入力すると、選択されたボイス メッセージが電話の画面に表示され

ます。デフォルトでは、未再生か再生済みかにかかわらず、メッセージは新しいものから順に掲載されます。ただし、Connection の管理者がこの再生順序を変更する場合があります。

電話のキーパッドを使用した Phone View でのメッセージの検索

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メイン メニューで、[メッセージの検索 (Find Messages)] オプションを選択します。

ステップ 3 探しているボイス メッセージを検索するには、適切なオプションを選択して指示に従います。

オプション	説明
すべての新規メッセージ	まだ聞いていないボイス メッセージが Connection によって表示されます。
すべてのメッセージ (All Messages)	Connection によって新しいメッセージおよび開封済みメッセージがすべて表示されます。
別のユーザから	指示に従って、電話のキーパッドでユーザ名またはユーザの内線番号を入力します。 名前の入力と番号の入力を切り替えるには、## を押します。
外部のすべての発信者から	Connection は、身元不明発信者からのメッセージを検索します。これには、外部からの発信者と、外部の電話またはユーザ アカウントに関連付けられていない電話（会議室など）からかける前に Connection にログインしていないユーザが含まれます。
特定の外部発信者から	指示に従い、電話のキーパッドを使用して発信者の電話番号をすべてまたは一部入力し、その後に # を付けます。 一部の発信者の電話番号の先頭には、国コードや市外局番などが追加されている場合があります。 すべての発信者の番号がシステムに保存されているとは限りません。 特定の発信者からのメッセージが見つからない場合は、Connection 管理者に問い合わせてください。

ステップ 4 メッセージ リストが電話の画面に表示された後、Connection によって再生されるメッセージを選択するには、次のソフト キーを使用します。

オプション	説明
セレクト	選択されたメッセージの再生を開始します。
次へ	該当する場合に、メッセージの次のページに移動します。
前へ	該当する場合に、メッセージの前のページに移動します。
[詳細 (More)]	[移動 (Go To)] ソフト キーと [終了 (Exit)] ソフト キーを表示します。 このキーは、最大 4 つのソフト キーを表示する電話機にのみ表示されます。
移動先	電話のキーパッドを使用してメッセージ番号を入力できる画面が表示され、そのメッセージを選択することでそのメッセージにスキップします。

オプション	説明
終了	表示されているメッセージリストの再生を終了します。これによって Connection の検索条件プロンプトに戻ります。

ステップ 5 プロンプトに従って、メッセージを聞いて処理します。

ボイス コマンドを使用した Phone View でのメッセージの検索

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、適切なボイス コマンドを使用して、電話の画面に表示するメッセージのタイプを選択します。

操作	ボイス コマンド
新規および開封済みのボイス メッセージまたは受信確認を表示する	「Show <voice messages/receipts>」
すべての新規ボイス メッセージを表示する	「Show new messages」
Connection ユーザからの新しいボイス メッセージ、開封済みボイス メッセージ、または削除されたボイス メッセージをすべて表示する	「Show <new/saved/deleted> messages from <name of user>」
開封済みのボイス メッセージまたは受信確認を表示する	「Show saved <voice messages/receipts>」
開封済みのボイス メッセージをすべて表示する	「Show saved messages」
削除されたボイス メッセージまたは受信確認を表示する	「Show deleted <voice messages /receipts>」
削除されたボイス メッセージをすべて表示する (一部のシステムでは使用不可)	「Show deleted messages」

ステップ 3 メッセージ リストが電話の画面に表示された後、Connection によって再生されるメッセージを選択するには、次のソフト キーを使用します。

ステップ 4 メッセージの聞き取り後にメッセージを管理するには、次のボイス コマンドを使用します。

メッセージジャンプオプションを使用したメッセージの検索

メッセージを聞く際、メッセージ ジャンプ オプションを使用して、メッセージの番号を入力することによって特定のメッセージを検索できます。

電話のキーパッドを使用したメッセージジャンプでのメッセージの検索

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 ボイス コマンドを使用していない場合は、ステップ 3 に進みます。

ボイス コマンドを使用している場合は、「Touchtoneconversation」と発音するか、**9**を押して、インプットスタイルを一時的に電話のキーパッドに切り替えます。

ヒント ジャンプ メッセージの使用後にインプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、電話を切り、Connection に再度ログインします。

ステップ 3 メインメニューで、適切なメニュー オプション ([新規メッセージを再生 (Play New Messages)] または [古いメッセージを確認 (Review Old Messages)]) を選択します。

ステップ 4 メッセージ ジャンプ ショートカット キーを押します。

ヒント メッセージ番号を入力するプロンプトを再生するためのショートカット キーについては、Connection 管理者に問い合わせてください。

ステップ 5 指示に従ってメッセージ番号を入力し、その後に **#** を入力します。

ステップ 6 プロンプトに従って、再生したメッセージを処理します。



第 5 章

削除されたメッセージの管理

- [削除されたメッセージについて](#) (25 ページ)
- [削除されたメッセージの完全な削除](#) (25 ページ)
- [削除されたメッセージの確認](#) (26 ページ)

削除されたメッセージについて

Cisco Unity Connection では、削除されたメッセージが保存されます。これらのメッセージは再生、復元、または完全に削除することができます。

削除されたメッセージの完全な削除

メッセージの削除は、特に Cisco Unity Connection が一定時間の経過後にメッセージを自動的に削除するように設定されていない場合、メールボックスのサイズを削減できる重要な手段です。

メッセージ保存ポリシーを適用するようにシステムが設定されているかどうかを、Connection の管理者に確認してください (Connection は、メッセージ保存ポリシーが適用されることを通知しません。また、このポリシーを実行した結果、メッセージが完全に削除されることも警告しません)。Connection に保存ポリシーが設定されていない場合は、定期的にメッセージを完全に削除してください。

関連トピック

[メールボックスのサイズの管理](#) (89 ページ)

電話のキーパッドを使用したメッセージの完全削除

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[古いメッセージを確認 (Review Old Messages)]、[削除済みメッセージ (Deleted Messages)] オプションの順に選択します。

ステップ3 指示に従って、削除されたメッセージの確認と削除を個別に行うか、すべてのメッセージを同時に削除します。

ボイス コマンドを使用したメッセージの完全削除

ステップ1 コールをして Connection にログインします。

ステップ2 Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

削除されたすべてのメッセージを完全に削除するには、「EmptyDeleted Items folder」と発音します。
Connectionによってアクションの確認を求められたら、「Yes」と発音します。

または

メッセージを1つずつ完全に削除するには、「Playdeleted messages」と発音します。メッセージを聞き取った後にそのメッセージを完全に削除するには、「Delete」と発音します。現在のメッセージを削除しないで次のメッセージにスキップするには、「Next」と発音します。

削除されたメッセージの確認

削除済みメッセージは、新しいメッセージや開封済みメッセージと同様に、再生できます。また、削除済みメッセージは、新しいメッセージまたは開封済みメッセージとして復元することもできます。

デフォルトでは、最も新しいメッセージが最初に再生されます。削除されたメッセージでは、メッセージ タイプ メニューを使用可能にしたり、タイプによって再生順序を指定したりできないことに注意してください。

電話のキーパッドを使用した削除されたメッセージの確認

ステップ1 コールをして Connection にログインします。

ステップ2 メインメニューで、[古いメッセージを確認 (Review Old Messages)]、[削除済みメッセージ (Deleted Messages)] オプションの順に選択します。

ステップ3 プロンプトに従って、再生した削除済みメッセージを処理します。

ステップ4 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

例：

Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

ボイス コマンドを使用した削除されたメッセージの確認

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

削除済みメッセージをすべて再生するには、「Playdeleted messages」と発音します。

または

特定の Connection ユーザからの削除済みボイス メッセージを再生するには、「Play deleted messages from <name of user>」と発音します。

または

「Play deleted <voice messages/emails/receipts>」を選択すると、特定の種類の削除されたメッセージを聞くことができます。（Connection は、テキスト/スピーチ オプションを持つユーザについてだけ電子メールを再生します）。

ステップ 3 聞き取り後に削除されたメッセージを管理するには、指示に従って次のボイス コマンドを使用します。

操作	ボイス コマンド
再度メッセージを再生する	「Repeat」
前のメッセージの再生	「Previous」
次のメッセージの再生	「Next」
開封済みメッセージとして復元する	「Saved」
メッセージを完全に削除する	「Delete」
メッセージへの返信	「Reply」
メッセージの送信者を呼び出す (一部のシステムでは使用不可)	「Call sender」
メッセージの転送	「Forward」
新規メッセージとして復元する (一部のシステムでは使用不可)	「Mark new」
メッセージ プロパティを再生	「Message properties」

ボイス コマンドを使用した削除されたメッセージの確認



第 6 章

ディスパッチ メッセージの管理

- [ディスパッチ メッセージについて \(29 ページ\)](#)
- [ディスパッチ メッセージへの応答 \(29 ページ\)](#)

ディスパッチ メッセージについて

ディスパッチ メッセージは、問題に応答可能なユーザの同報リストに送信されます。ディスパッチ メッセージに回答する必要があるユーザは 1 人だけです。Cisco Unity Connection がディスパッチ メッセージを再生した後、次のオプションがあります。

メッセージを受信	このオプションを選択したユーザは、メッセージを承諾する同報リストの唯一のメンバーであることを意味します。他のすべての受信者がメッセージを聞いたかどうかにかかわらず、メッセージのコピーは他のすべての受信者のメールボックスから削除されます。
メッセージを拒否	このオプションを選択したユーザのメールボックスからはメッセージが削除されますが、まだメッセージを拒否していない他の受信者のメールボックス内ではそのメッセージのコピーが未開封のまま残ります。 (注) 他のすべての受信者がディスパッチ メッセージを拒否した場合は、最後の 1 人のユーザがディスパッチ メッセージを受信する必要があります。最後の 1 人のユーザはメッセージを拒否できません。
メッセージの先送り	このオプションを選択したユーザとまだメッセージを拒否していない他の受信者のメールボックスには、メッセージが未開封のまま残ります。

ディスパッチ メッセージへの応答

ディスパッチ メッセージへの応答に関する考慮事項は次のとおりです。

- 自分がディスパッチ メッセージを受け入れる前に、他の受信者がディスパッチ メッセージを受け入れると、自分のメールボックスからはメッセージのコピーが削除されます。
- ディスパッチ メッセージを拒否した場合、そのディスパッチ メッセージは Cisco Unity Connection によって削除済みアイテム フォルダに移動されません。
- ディスパッチ メッセージが届くと、電話のメッセージ受信インジケータが点灯する場合があります。他の受信者がディスパッチ メッセージを受け入れた場合、Connection によって自分のメールボックスからメッセージが削除された後に、インジケータが消灯します。メッセージが削除されてからインジケータが消灯するまでの間には時間差が発生する場合があります。インジケータに気付いた後に新しいメッセージが見つからない場合は、この時間差の間にチェックしたことが原因である可能性があります。
- ディスパッチ メッセージを含めるようにメッセージ通知規則を設定している場合、通知を受け取り、メッセージを取得するためにコールするまでには、別のユーザがすでにメッセージを受け入れているために、このメッセージがユーザのメールボックスから削除されている可能性があることに注意してください。

関連トピック

[ディスパッチ メッセージについて](#) (29 ページ)

電話のキーパッドを使用したディスパッチ メッセージの管理

ディスパッチ メッセージを再生した後、指示に従ってメッセージを受け入れるか、拒否するか、先送りにします。

ボイス コマンドを使用したディスパッチ メッセージの管理

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「ディスパッチメッセージの再生」

ステップ 3 ディスパッチ メッセージを再生した後、指示に従い、次のボイス コマンドを使用してメッセージに応答します。

操作	ボイス コマンド
メッセージを受信	「Accept」
メッセージを拒否	「Decline」

操作	ボイス コマンド
メッセージの先送り	「Postpone」



第 7 章

ボイス コマンドによる電話の発信

- [ボイス コマンドによる電話の発信について \(33 ページ\)](#)
- [ボイス コマンドを使用した電話の発信 \(33 ページ\)](#)

ボイス コマンドによる電話の発信について

個人名、電話番号、あるいは内線番号を発音することで、連絡先または別の Cisco Unity Connection ユーザに電話を発信できます。

たとえば、「Call Harriet Smith」と発音すると、Connection が Harriet の内線番号を企業ディレクトリで検索し、電話を発信します。「Call Mom at home」と発音すると、Connection は連絡先リストの母親の自宅の電話番号を検索して、電話を発信します。

ボイス コマンドを使用して電話を発信する場合は、Connection にログインする必要があります。この機能は、メッセージの確認時や、電話を発信する場合や折り返し電話をする場合に便利です。

名前、電話番号、または内線番号を発音すると、一致する名前または番号が Connection によって再生され、電話が発信されます。要求された名前または番号に一致するものが複数検出された場合、Connection は、最初に一致したものを再生し、一致内容が正しいかどうかを確認するようユーザに要求します。正しくない場合は、「No」と言います。引き続き、Connection が一致する他の相手を再生します。

ボイス コマンドを使用した電話の発信

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「Call <Name/alternate name>」で Connection ユーザーに電話をかけます。（たとえば、「Call Frank Edwards」）。

または

「**Call <Name/alternate name> at <home/work/mobile>**」で特定の番号の連絡先に電話をかけます。（たとえば、「Call Bob on his mobile」または「Call Service Department at work」と発音します）。

または

「**Call <Number>**」で、Connection 内線または電話番号に発信します。数字は、1桁ずつ個別に発音します（たとえば、内線番号 12345 の場合は、「Call one two three four five」と発音し、「Call twelve three forty-five」とは発音しないでください）。

ステップ 3 Connectionが呼び出す相手の名前または番号を再生したら、「Cancel」と発音することで、システムへの接続を維持したまま最後のアクションを停止することができます。

関連トピック

[ボイス コマンドによる電話の発信について](#) (33 ページ)



第 8 章

会議の管理

- [会議の管理について \(35 ページ\)](#)
- [予定されている会議の一覧表示 \(35 ページ\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace での即時会議の開始 \(37 ページ\)](#)

会議の管理について

改訂：2010 年 11 月 16 日

Microsoft Outlook または Cisco Unified MeetingPlace でスケジュールされている予定と会議を確認できます。

会議を管理するために実行できるその他のアクションには次のものがあります。

- 会議への招待の受け入れまたは拒否（Outlook 会議に限る）。
- 進行中の会議への参加。
- 会議の参加者の一覧表示。
- 会議への招待の詳細情報の再生。
- 会議開催者へのメッセージの送信。
- 会議参加者へのメッセージの送信。
- 会議のキャンセル（会議開催者に限る）。
- Cisco Unified MeetingPlace での即時会議の開始。

予定されている会議の一覧表示

改訂：2010 年 11 月 16 日

予定されている会議の一覧の再生に加え、Cisco Unity Connection は各会議の詳細を再生し、対応の一覧を提供します。

電話のキーパッドを使用した予定されている会議の一覧表示

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[会議 (Meetings)] オプションを選択します。

ステップ 3 指示に従って、会議の一覧を再生する時間帯を定義します。

ステップ 4 各会議が一覧表示されたら、指示に従って、会議についての詳細情報の取得、会議への参加、参加者の一覧表示、開催者へのメッセージの送信、会議参加者へのメッセージの送信、会議への招待の受け入れ、または会議への招待の拒否を行います。会議の開催者は、会議をキャンセルするオプションも選択できます。

ボイス コマンドを使用した予定されている会議の一覧表示

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「PlayMeetings」または「ListMeetings」と発音して、現在および将来のすべての会議の時刻、会議の開催者、および件名を一覧表示します。

または

「Play Meetings on <date>」または「List Meetings on <date>」と発音して、特定の日付の会議の時刻、会議の開催者、および件名を一覧表示します。

ステップ 3 説明の再生後に会議を管理するには、指示に従って次のボイス コマンドを使用します。

操作	ボイス コマンド
Cisco MeetingPlace 会議に参加する	「Join」
参加者のリストを再生する	「List participants」
会議リマインダから詳細情報を再生する	「Details」
会議開催者に送信するボイス メッセージを録音する	「Send message to organizer」
会議参加者に送信するボイス メッセージを録音する	「Send message to participants」
予定表に含まれる次の会議の時刻、会議開催者、および件名を再生する	「Next」
予定表に含まれる前の会議の時刻、会議開催者、および件名を再生する	「Previous」
会議依頼を承諾する (Outlook 会議に限定)	「Accept」

操作	ボイス コマンド
会議依頼を辞退する（Outlook 会議に限定）	「Decline」
会議をキャンセルする（会議開催者に限る）	「Cancel meeting」

Cisco Unified MeetingPlace での即時会議の開始

改訂：2010 年 11 月 16 日

Cisco Unified MeetingPlace および Cisco Unity Connection を使用して即時会議を開始し、会議に接続できます。

電話のキーパッドを使用した即時会議の開始

- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2 メインメニューで、[会議（Meetings）]、[会議を開催（Start Meetings）] オプションを選択します。
- ステップ 3 指示に従って、Cisco Unified MeetingPlace の即時会議を現在の時刻に設定し、参加します。

ボイス コマンドを使用した即時会議の開始

- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「StartMeeting」。
- ステップ 3 指示に従って、Cisco Unified MeetingPlace の即時会議を現在の時刻に設定し、参加します。



第 9 章

パーソナル グリーティングの管理

- [パーソナル グリーティングについて \(39 ページ\)](#)
- [現在のグリーティングの再録音 \(41 ページ\)](#)
- [オプション グリーティングのオンまたはオフ \(42 ページ\)](#)
- [グリーティングの変更 \(43 ページ\)](#)
- [すべてのグリーティングの再生 \(45 ページ\)](#)
- [多言語システムでの追加言語のグリーティングの録音 \(45 ページ\)](#)

パーソナル グリーティングについて

Cisco Unity Connection では、パーソナル グリーティングを最大 6 つ録音できます。グリーティングは必要な数だけ有効にすることができます。また、グリーティングの使用期間も指定できます。

多言語システムの場合、複数の言語（デフォルトの言語とそれ以外のシステムで利用可能な言語）でパーソナル グリーティングを再生するオプションを選択できます。デフォルト以外の言語のグリーティングを管理するには、電話のキーパッドを使用します。ボイスコマンドは使用できません。

次に、6 つのパーソナル グリーティングとそのしくみについて説明します。Connection では、有効にしたグリーティングが適切な状況で再生されます。ただし、一部のグリーティングは他のグリーティングより優先されます。

標準グリーティング

このグリーティングは、Connection の管理者が指定した会社の営業時間中、または他のグリーティングがすべて有効ではない状況において再生されます。

設計上、標準グリーティングはオフにすることができません。

時間外グリーティング

Connection の管理者が指定した会社の営業時間外に、特別なグリーティングを再生する場合は、このグリーティングを有効にします（たとえば、「申し訳ありませんが、電話に出ることができません。当社の営業時間は <times> です」）。

時間外グリーティングが有効になっていると、営業時間外の場合に限り、このグリーティングが標準グリーティングより優先されます。

オプション グリーティング

休暇中などの特別な状況を知らせる場合は、このグリーティングを特定の期間に有効にします（たとえば、「<date> までオフィスにいません」）。

有効になっている場合、このグリーティングは他のどのグリーティングよりも優先されます。

電話の呼び出し音を鳴らさずにグリーティングを発信者を再生するかどうか、発信者がグリーティングをスキップできるかどうか、およびオプショングリーティングが有効であるときに発信者がメッセージを残せるかどうかは、Connection の管理者が指定します。Messaging Assistant Web ツールの [オプション グリーティング (Alternate Greeting)] ページには、管理者が使用可能にしている発信者オプションが示されます（ある場合）。外部の発信者や他の Connection ユーザが内線をダイヤルして直接電話をかけた場合、発信者オプションは適用されません。



ヒント 他の Connection ユーザが電話でメッセージを送信した場合、そのユーザにはオプショングリーティングが再生されません。オプショングリーティングを有効にするときは、自分の名前だけでなく、自分が不在であることを示す情報を録音名に含めるようにすることも検討してください。録音名は、他のユーザがメッセージの宛先としてその名前を指定したとき、またディレクトリでその名前を検索したときに再生されます。

電話で Connection にログインした後、オプショングリーティングが有効になっていることを知らせるプロンプトが再生されることもあります。

通話中グリーティング

通話中であることを発信者に知らせたい場合は、このグリーティングを有効にします（たとえば、「現在別の電話に出ています。メッセージを残してください」）。

通話中グリーティングが有効になっていると、通話中の場合に限り、このグリーティングが標準グリーティング、時間外グリーティング、内線グリーティングより優先されます。

なお、Connection の通話中グリーティングが動作するのに必要なサポートは、すべての電話システムで提供されているわけではありません。詳細については、Connection の管理者に問い合わせてください。

内線グリーティング

同僚に知らせたい情報を提供する場合は、このグリーティングを有効にします（たとえば、「本日の正午まで会議室 B にいます」）。

有効になっている場合、内線グリーティングは標準グリーティングおよび時間外グリーティングより優先されます。また、内線グリーティングは、電話に応答しない場合に社内の発信者に対してだけ再生されます。

一部の電話機では内線グリーティングがサポートされない場合があるので注意してください。詳細については、Connection の管理者に問い合わせてください。

祝日グリーティング

祝日に特別なグリーティングを再生する必要がある場合は、このグリーティングを有効にします（たとえば、「本日は祝日でございますので、電話に出ることができません。<date>～<date>までオフィスにいません」）。

祝日グリーティングが有効になっていると、営業時間外の場合に限り、このグリーティングが標準グリーティングより優先されます。

現在のグリーティングの再録音

この項では、現在、Cisco Unity Connection で再生するように設定されているグリーティングを新しく録音します。

電話のキーパッドを使用した現在のグリーティングの再録音

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 単一言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション（Setup Options）]、[グリーティング（Greetings）] オプションの順に選択します。

または

多言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション（Setup Options）]、[グリーティング（Greetings）]、<Applicable Language for the Current Greeting to Rerecord> オプションの順に選択します。

ステップ 3 Connection によって現在のグリーティングが再生された後、指示に従って再録音します。

録音を一時停止または再開するには、**8** を押します。録音を終了するには、**#** を押します。

電話でボイス コマンドを使用した現在のグリーティングの再録音

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「Record my <greeting name> greeting」

ステップ 3 録音が終了したら、**#** を押します。

オプション グリーティングのオンまたはオフ

オプション グリーティングをオンにすると、日時を設定してオフにしたり、無制限にオンにしたりできます。

電話のキーパッドを使用したオプション グリーティングのオンまたはオフ

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 単一言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[グリーティング (Greetings)] オプションの順に選択します。

または

多言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[グリーティング (Greetings)]、<Applicable Language for the Alternate Greeting to Turn On/Off> オプションの順に選択します。

ステップ 3 # を押して、現在のグリーティングの再生を省略します。

ステップ 4 指示に従って、代替グリーティングをオンまたはオフにします。

ステップ 5 オプション グリーティングをオンにした場合は、指示に従って、いつオフにするのかを設定するか、無期限にオンのままにしておきます。

ボイス コマンドを使用したオプション グリーティングのオンまたはオフ

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「Turn on my alternate greeting」（グリーティングは無期限にオンのままになります）、または「Turn on alternate greeting until <date> at <time>」

または

「Turnoff my alternate greeting」。

グリーティングの変更

個人設定をオンにすると、使用可能になるまでの待機時間を指定できます。Cisco Unity Connection は、指定した時刻まで該当する状況でグリーティングを再生し、その後グリーティングは自動的にオフになります。たとえば、オプション グリーティングを設定して、休暇から戻ってきた日に再生を止めることができます。

グリーティングは無期限に再生するように設定することもできます。これは、通話中グリーティングや時間外グリーティングを有効にするときに便利です。

次のいずれかを選択して、グリーティングが有効であるときに発信者に対して再生する内容を指定します。

このグリーティングを録音し直す	Connection によって、ユーザが録音したグリーティングが再生されます。 (注) グリーティングを録音しただけでは、そのグリーティングは有効になりません。
システム グリーティング	Connection によって、あらかじめ録音されているグリーティングが、録音名とともに再生されます（たとえば、「申し訳ありません。<your name> は電話に出られません」）。録音名が登録されていない場合は、Connection がテキスト/スピーチ機能を使用して表示名を読み上げます。まだ録音されていないグリーティングを有効にした場合は、Connection によってあらかじめ録音されているシステム グリーティングが再生されます。

グリーティングはいつでもオフにすることができます。グリーティングを無効にすると、録音を消去しなくても、Connection ではそのグリーティングは再生されなくなります。



ヒント パーソナル グリーティングを録音した後でシステム グリーティングを使用するように設定した場合、録音したグリーティングは電話で使用できなくなります。新しいパーソナル グリーティングを録音して有効にする必要があります。

電話のキーパッドを使用したグリーティングの変更

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 単一言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[グリーティング (Greetings)] オプションの順に選択します。

または

多言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[グリーティング (Greetings)]、<Applicable Language for the Greeting to Change> オプションの順に選択します。

ステップ 3 Connection が現在のグリーティングを再生します。再生をスキップするには、# を押します。

ステップ 4 指示に従って、変更するグリーティングを選択してから変更を行います。

録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押します。

ボイス コマンドを使用したグリーティングの変更

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のコマンドを使用してグリーティングを変更し、追加の指示が再生されたらそれに従います。

操作	ボイス コマンド
標準グリーティングを再生する	「Play my greeting」
特定のグリーティングを再生する	「Play <greeting name> greeting」
標準グリーティングを録音または再録音する	「Record my greeting」
時間外グリーティング、オプション グリーティング、通話中グリーティング、内線グリーティング、または祝日グリーティングを録音または再録音する	「Record my <greeting name> greeting」
標準グリーティングとしてシステム グリーティングを使用する	「Use my default greeting」
特定のグリーティングとしてシステム グリーティングを使用する	「Use default <greeting name> greeting」
グリーティングとして何も使用しない (発信者にはメッセージを残すように合図する発信音だけが再生されます)	「Play nothing for my <greeting name> greeting」
無期限にグリーティングを有効にする	「Turn on <greeting name> greeting」
特定の日時までグリーティングを有効にする	「Turn on <greeting name> greeting until <date> at <time>」
グリーティングを無効にする	「Turn off <greeting name> greeting」
ヘルプ	「Greetings Help」

録音を一時停止または再開するには、**8**を押します。録音を終了するには、**#**を押すか、数秒間無音の状態にします。

すべてのグリーティングの再生

Cisco Unity Connection はまず現在のグリーティングを再生してから、残りのグリーティングを再生します。

電話のキーパッドを使用したすべてのグリーティングの再生

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 単一言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[グリーティング (Greetings)]、[全てのグリーティングを聞く (Play All Greetings)]オプションの順に選択します。

または

多言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[グリーティング (Greetings)]、<Applicable Language in Which to Hear Greetings>、[全てのグリーティングを聞く (Play All Greetings)]オプションの順に選択します。

Connection が 6 つのグリーティングすべてを、現在のグリーティングから順に再生します。

ボイス コマンドを使用したすべてのグリーティングの再生

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「Playall greetings」。

Connection が 6 つのグリーティングすべてを、現在のグリーティングから順に再生します。グリーティングごとに、Connection はグリーティングがオンかオフかを通知します。

多言語システムでの追加言語のグリーティングの録音

多言語システムの場合、複数の言語でグリーティングを再生するオプションを選択できます。たとえば、Cisco Unity Connection がフランス語とスペイン語でプロンプトを再生するように設

定されている場合、標準グリーティングを両方の言語で録音して、スペイン語を話す発信者とフランス語を話す発信者にそれぞれの言語でグリーティングを再生することができます。

システムに対応する言語でグリーティングが録音されていない場合、Connection は、その言語に関連付けられた通話に対してシステムグリーティングを再生します。たとえば、標準グリーティングをスペイン語ではなくフランス語で録音した場合、スペイン語を話す発信者に対してはシステムグリーティングが再生され、フランス語を話す発信者に対してはユーザが録音したフランス語のグリーティングが再生されます。

録音するグリーティングの言語を選択すると、Connection は同じ言語で [グリーティング (Greetings)] メニュー オプションを再生します。

電話のキーパッドを使用した追加言語のグリーティングの録音

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[グリーティング (Greetings)]、<Applicable Language of Greeting to Record> オプションの順に選択します。

ステップ 3 Connection が現在のグリーティングを再生します。再生をスキップするには、# を押します。

ステップ 4 指示に従って、録音するグリーティングを選択して録音します。

録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押します。

ボイス コマンドを使用した追加言語のグリーティングの録音

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「SetupOptions」 (Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[グリーティング (Greetings)]、<Applicable Language of Greeting to Record> オプションの順に選択します。

ステップ 4 Connection が現在のグリーティングを再生します。再生をスキップするには、# を押します。

ステップ 5 指示に従って、録音するグリーティングを選択して録音します。

録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押すか、数秒間無音の状態にします。

ヒント インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。



第 10 章

メッセージの到着通知の管理

- [メッセージ通知の説明 \(47 ページ\)](#)
- [デバイスへの通知のオンまたはオフ \(47 ページ\)](#)
- [通知先電話番号の変更 \(48 ページ\)](#)

メッセージ通知の説明

Cisco Unity Connection は電話またはポケットベルを呼び出して、新しいメッセージの到着を通知できます。

通知のオンとオフを切り替えるだけでなく、自宅の電話、職場の電話、携帯電話、ポケットベルなどの通知先電話番号を変更することもできます。



(注) Messaging Assistant Web ツールを使用している場合は、さらに多くのオプションや通知デバイスを使用できます。Messaging Assistant のヘルプを参照してください。

デバイスへの通知のオンまたはオフ

自宅の電話、職場の電話、携帯電話、ポケットベルに対する通知のオンとオフを切り替えることができます。通知デバイスをオフにしても、その設定は削除されません。

電話のキーパッドを使用したデバイスへの通知のオンまたはオフ

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[メッセージ設定 (Message Settings)]、[メッセージの通知 (Message Notification)] オプションの順に選択します。

ステップ3 Connection で現在の通知の状態がアナウンスされた後、指示に従ってポケットベル、自宅の電話、職場の電話、または携帯電話への通知をオンまたはオフにします。

ボイス コマンドを使用したデバイスへの通知のオンまたはオフ

ステップ1 コールをして Connection にログインします。

ステップ2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「SetupOptions」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。

ステップ3 電話のキーパッドで、[メッセージ設定（Message Settings）]、[メッセージ通知（Message Notification）] オプションの順に選択します。

ステップ4 Connection で現在の通知の状態がアナウンスされた後、指示に従ってポケットベル、自宅の電話、職場の電話、または携帯電話への通知をオンまたはオフにします。

ヒント インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。

通知先電話番号の変更

自宅の電話、職場の電話、携帯電話、およびポケットベルの通知先番号を変更できます。

社内の電話番号の場合は、内線を入力します。外線電話番号の場合は、外線通話に必要なアクセスコード（たとえば9）から入力を始めます。日本語版では削除：For long-distance numbers, include the applicable dialing codes (for example, 1 and the area code). 必要に応じて、# キーを使用して、1 秒間のポーズを追加します。

電話のキーパッドを使用した通知先電話番号の変更

ステップ1 コールをして Connection にログインします。

ステップ2 メインメニューで、[設定オプション（Setup Options）]、[メッセージ設定（Message Settings）]、[メッセージの通知（Message Notification）] オプションの順に選択します。

ステップ3 Connection で現在の通知の状態がアナウンスされた後、指示に従ってポケットベル、自宅の電話、職場の電話、または携帯電話の通知先電話番号を変更します。

ボイス コマンドを使用した通知先電話番号の変更

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「SetupOptions」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[メッセージ設定（Message Settings）]、[メッセージ通知（Message Notification）]オプションの順に選択します。

ステップ 4 Connection で現在の通知の状態がアナウンスされた後、指示に従ってポケットベル、自宅の電話、職場の電話、または携帯電話の通知先電話番号を変更します。

ヒント インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。



第 11 章

プライベート リストの処理

- プライベート同期リストの説明 (51 ページ)
- プライベート同報リストの作成 (51 ページ)
- プライベート同報リストのメンバーの変更 (53 ページ)
- プライベート同報リストの録音名の変更 (54 ページ)
- プライベート同報リストの削除 (55 ページ)

プライベート同期リストの説明

プライベート同報リストを使用して、ボイスメッセージ受信者のグループを独自に作成できます。ボイスメッセージをプライベート同報リストの 1 つに宛先指定すると、そのリスト上のすべての受信者にそのメッセージが送信されます。Cisco Unity Connection には、個人用に使用できるプライベート同報リストがいくつか用意されています。

プライベート同報リストにボイスメッセージを送信できるのは、そのリストの所有者だけです。これを行うには、電話のキーパッドまたはボイス コマンドを使用します。電子メールアプリケーションでは、メッセージをプライベート同報リストに送ることはできません。

プライベート同報リストの作成

管理できるリストの最大数は、Cisco Unity Connection の管理者が指定します。リストにはあらかじめ番号が付けられています。リストに名前を追加すると、Connection はリストの番号をリスト管理用の ID として使用します。



ヒント 電話を使用してプライベート同報リストを作成することもできますが、Messaging Assistant Web ツールで作成する方が簡単です。

電話のキーパッドを使用したプライベート同報リストの作成

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[メッセージ設定 (Message Settings)]、[プライベート同報リスト (Private Lists)]、[プライベート同報リストの編集 (Change the Names on a Private List)] の順に選択します。

ステップ 3 未使用のリストの番号を入力します。

ヒント 未使用のリストの番号がわからない場合は、メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[メッセージ設定 (Message Settings)]、[プライベート同報リスト (Private Lists)]、[プライベート同報リストの名前の変更 (Hear Private Lists)] オプションの順に選択します。Connection は、リスト番号を含むすでに使用中のリストに関する情報を再生するため、再生された番号以外の番号を使用します。

ステップ 4 Connection での「PrivateList<Number>」というアナウンスの後、指示に従ってリストに名前を追加します。

ステップ 5 名前の追加が終了したら、[リストの名前をもう一度録音する (Rerecord the Name of the List)] オプションを選択し、指示に従ってリスト名を録音します。

ボイス コマンドを使用したプライベート同報リストの作成

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「SetupOptions」 (Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[メッセージ設定 (Message Settings)]、[プライベート同報リスト (Private Lists)]、[プライベート同報リストの編集 (Change the Names on a Private List)] を選択します。

ステップ 4 未使用のリストの番号を入力します。

ヒント 未使用のリストの番号がわからない場合は、[メッセージ設定 (Message Settings)]、[プライベート同報リスト (Private Lists)]、[プライベート同報リストの名前の変更 (Hear Private Lists)] オプションの順に選択します。Connection は、リスト番号を含むすでに使用中のリストに関する情報を再生するため、再生された番号以外の番号を使用します。

ステップ 5 Connection での「PrivateList<Number>」というアナウンスの後、指示に従ってリストに名前を追加します。

ステップ 6 名前の追加が終了したら、[リストの名前をもう一度録音する (Rerecord the Name of the List)] オプションを選択し、指示に従ってリスト名を録音します。

ヒント インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。

プライベート同報リストのメンバーの変更

プライベート同報リストに追加できるメンバーの最大数は、Cisco Unity Connection の管理者が指定します。ディレクトリ内のユーザまたはシステム同報リストはすべて、プライベート同報リストのメンバーとして指定できます。

Connection の設定状況によっては、ディレクトリ外のリモート ボイス メッセージング システム上のユーザにメッセージを送信したり返信したりできる場合があります。その場合は、リモート連絡先であるこれらのユーザを、プライベート同報リストに含めることもできます。

すでにプライベート同報リストのメンバーとなっているユーザ、システム同報リスト、またはリモート連絡先を追加しようとしても、Connection では、そのメンバーを同じリストに再度追加することはできません。

プライベート同報リストでは、メンバーの追加、確認、削除が可能です。



- (注) プライベート同報リストのメンバーに対して管理上の変更が行われた場合、後でリストを確認するときにメンバーが異なって表示されることがあります。ときには、管理上の変更によって、一部のメンバーが予告なくリストから削除される場合もあります。Connection の管理者は、変更が発生する前にユーザに通知できるはずですが、それでも、誤ってメンバーが削除された場合は、ユーザがこれらのメンバーをもう一度リストに追加します。

電話のキーパッドを使用したプライベート同報リストのメンバーの変更

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[メッセージ設定 (Message Settings)]、[プライベート同報リスト (Private Lists)]、[名前の変更 (Change the Names)] オプションの順に選択します。

ステップ 3 指示に従ってメンバーを変更するリストを選択し、メンバーを追加、確認、または削除します。

ヒント リストのメンバーを確認する際には、それぞれのメンバーをすばやく選択できます。リストから受信者を削除するには **3** を押します。前の名前に戻るには **7** を押します。次の名前に進むには **9** を押します。リストの先頭に戻るには **77** を押します。リストの最後に進むには **99** を押します。

ボイスコマンドを使用したプライベート同報リストのメンバーの変更

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「Setup Options」 (Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[メッセージ設定 (Message Settings)]、[プライベート同報リスト (Private Lists)]、[名前の変更 (Change the Names)]を選択します。

ステップ 4 指示に従ってメンバーを変更するリストを選択し、メンバーを追加、確認、または削除します。

ヒント リストのメンバーを確認する際には、それぞれのメンバーをすばやく選択できます。リストから受信者を削除するには **3** を押します。前の名前に戻るには **7** を押します。次の名前に進むには **9** を押します。リストの先頭に戻るには **77** を押します。リストの最後に進むには **99** を押します。

ヒント インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。

プライベート同報リストの録音名の変更

各プライベート同報リストには、録音名があります。メッセージの宛先にプライベート同報リストを指定する場合、Cisco Unity Connection は、正しいリストにメッセージが宛先指定されたことを確認できるよう、録音名を再生します。

電話のキーパッドを使用したプライベート同報リストの録音名の変更

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	コールをして Connection にログインします。	
ステップ 2	メイン メニューで、[設定オプション (Set Up Options)]、[メッセージ設定 (Message Settings)]、[プライベート同報リスト (Private Lists)]、[リストの編集 (Change Names)] の順に選択します。	
ステップ 3	指示に従って録音名を変更するリストを選択し、名前を再録音します。(選択したリストにメンバーが存在しない場合は、メンバーを追加してからリストの名前を録音する必要があるので注意してください)	

ボイス コマンドを使用したプライベート同報リストの録音名の変更

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[メッセージ設定（Message Settings）]、[プライベート同報リスト（Private Lists）]、[名前の変更（Change the Names）]を選択します。

ステップ 4 指示に従って録音名を変更するリストを選択し、名前を再録音します。（選択したリストにメンバーが存在しない場合は、メンバーを追加してからリストの名前を録音する必要があるので注意してください）

ヒント インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。

プライベート同報リストの削除

電話を使用して、リストの個々のメンバーを削除できますが、リスト自体は削除できません。Messaging Assistant Web ツールのレコード名を含むリストとすべてのメンバーを一度に削除します。



第 12 章

アドレス指定優先順位リストの管理

- [アドレス指定優先順位リストについて \(57 ページ\)](#)
- [アドレス指定優先順位リストの変更 \(57 ページ\)](#)

アドレス指定優先順位リストについて

アドレス指定優先順位リストにより、「buddy」リストのように定義された特定の受信者が Cisco Unity Connection で優先されるようになります。メッセージのアドレス指定を行い、スペリングの一部や名前の呼び方に基づいて、Connection で複数の受信者名の一致が見つかったら、アドレス指定優先順位リストにある名前との一致が最初に表示されます。これによって、簡単に目的の受信者を検索して選択できます。

また、Connection では、メッセージを送信するときに受信者の名前をアドレス指定優先順位リストへ自動的に追加することもでき、メッセージを送信する頻度に基づいて、リスト内の名前の優先順位を変更することもできます。



(注) アドレス指定優先順位リストの確認と変更を行えるかどうか、または使用頻度に応じて自動的に Connection が受信者名をリストに追加するかどうかは、Connection の管理者によって決定されます。

アドレス指定優先順位リストの変更

アドレス指定優先順位リストでは、ユーザ、連絡先、同報リストを追加したり、内容を確認したり、名前を削除したりできます。アドレス指定優先順位リストには、メッセージ宛先指定履歴に基づいて、Cisco Unity Connection で自動的に追加された名前が含まれることもあります。

電話のキーパッドを使用したアドレス指定優先順位リストの変更

- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[メッセージ設定 (Message Settings)]、[宛先指定優先リスト (Addressing Priority List)] の順に選択します。
- ステップ 3** 指示に従って、アドレス指定優先順位リストのメンバーの追加、確認、削除を行います。名前を確認する場合は、Connection で、姓（ユーザと連絡先の場合）または表示名（同報リストの場合）のアルファベット順で表示されます。
-

ボイス コマンドを使用したアドレス指定優先順位リストの変更

- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
- 「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[メッセージ設定 (Message Settings)]、[宛先指定優先リスト (Addressing Priority List)] を選択します。
- ステップ 4** 指示に従って、アドレス指定優先順位リストのメンバーの追加、確認、削除を行います。名前を確認する場合は、Connection で、姓（ユーザと連絡先の場合）または表示名（同報リストの場合）のアルファベット順で表示されます。
- ヒント** インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。
-



第 13 章

ユーザ設定の変更

- [ユーザ設定について \(59 ページ\)](#)
- [PIN の変更 \(59 ページ\)](#)
- [録音名の変更 \(60 ページ\)](#)
- [ディレクトリ登録ステータスの変更 \(61 ページ\)](#)
- [代替デバイスの変更 \(62 ページ\)](#)

ユーザ設定について

個人設定では、Cisco Unity Connection システム上におけるユーザ情報と、システムとの対話に関するオプションが管理されます。

PIN の変更

Cisco Unity Connection の暗証番号は、メッセージのプライバシーを保護します。また、不正アクセスからメールボックスを保護します。PIN はいつでも変更できます。

暗証番号を変更する際には、Connection 管理者から提供されるセキュリティ ガイドラインに従ってください。一般に、パスワードは短い方が使いやすいのですが、長くて単純でないパスワードを指定した方がより安全です。「長くて単純でないパスワード」の意味は次のとおりです。

- プライマリ内線番号やそれを逆にしたものを含めることはできない。
- 少なくとも 3 つの異なる数字が必要。
- 昇順また降順で連続する数字（たとえば 12345 や 54321）を使用することはできない。
- 数字は 3 回以上続けて使用できない（たとえば 14777）。
- 3 桁以上の数字を繰り返し使用することはできない（たとえば 408510408）。

- 名、姓、またはそれらの組み合わせを数値に直して使用することはできない（たとえば、名前が John Doe の場合、johnd、johndoe、jdoe、または doe を数字に直して使用することはできない）。

電話キーパッドを使用した暗証番号の変更

- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[設定 (Preferences)]、[パスワード (Password)] オプションの順に選択します。
- ステップ 3 指示に従って、新しいパスワードを入力し、確認します。0～9の数字を使用します。

ボイス コマンドを使用した暗証番号の変更

- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
- 「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
- ステップ 3 電話のキーパッドで、[設定 (Preferences)]、[パスワード (Password)] オプションの順に選択します。
- ステップ 4 指示に従って、新しいパスワードを入力し、確認します。0～9の数字を使用します。
- ヒント インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。

録音名の変更

録音名は、他のユーザに残したメッセージとともに再生され、ディレクトリではその名前でユーザが識別されます。また、独自の録音の代わりにシステム録音を使用したグリーティングとともに再生することもできます。



- ヒント 他の Cisco Unity Connection ユーザが電話でメッセージを送信した場合、そのユーザにはオプション グリーティングが再生されません。オプション グリーティングを使用可能にするときは、録音名を変更して、不在であることを示す情報を追加することを検討してください。

電話のキーパッドを使用した録音名の変更

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[設定 (Preferences)]、[録音名 (Recorded Name)] オプションの順に選択します。

ステップ 3 プロンプトに従って、名前または短いメッセージを録音します。

録音を一時停止または再開するには、**8** を押します。録音を終了するには、**#** を押します。

ボイス コマンドを使用した録音名の変更

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「SetupOptions」 (Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[設定 (Preferences)]、[録音名 (Recorded Name)] オプションの順に選択します。

ステップ 4 プロンプトに従って、名前または短いメッセージを録音します。

録音を一時停止または再開するには、**8** を押します。録音を終了するには、**#** を押すか、数秒間無音の状態にします。

ヒント インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで ***** を押し続けます。

ディレクトリ登録ステータスの変更

電話帳に掲載するかどうかを選択できます。ディレクトリに登録しておくと、自分の内線番号を知らない他のユーザが、ディレクトリで自分の名前を検索することによって、連絡を取ることができるようになります。

電話のキーパッドを使用したディレクトリー一覧ステータスの変更

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[設定 (Preferences)]、[ディレクトリー一覧 (Directory Listing)] オプションの順に選択します。

Connection によって、ディレクトリ一覧にあるかどうか通知されます。

ステップ 3 プロンプトに従って、登録ステータスを変更します。

ボイス コマンドを使用したディレクトリ一覧ステータスの変更

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「SetupOptions」 (Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[設定 (Preferences)]、[ディレクトリ登録 (DirectoryListing)] を選択します。

ステップ 4 プロンプトに従って、登録ステータスを変更します。

ヒント インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。

代替デバイスの変更

携帯電話、自宅の電話、あるいは職場の別の電話など使用する代替デバイスの情報を Cisco Unity Connection 設定に追加できます。この機能によって、代行用デバイスから Connection への電話がより便利になります。これは、プライマリ内線番号から電話をかける場合と同じようにシステムが番号を認識し、動作するためです。

最大 10 台の代替デバイスを追加できます。Connection の管理者は、プライマリ内線番号の他に、代行用デバイスを追加できます。(電話でシステムにアクセスするときには、Connection は管理者が定義した代替デバイスを一覧化しません。ただし、Messaging Assistant では表示できます)。



(注) 代行用デバイスの一覧に含まれない電話番号からサインインすると、その番号を追加するかどうかが尋ねられます。番号の追加を選択すると、プライマリ内線番号から電話をかける場合と同じように Connection がその番号を認識し、動作します。番号の追加を選択しないと、追加について再度尋ねられることはありません。

電話で代替デバイスを追加または削除できます。

電話キーパッドを使用した代替デバイスの変更

-
- ステップ 1** プライマリ内線または既存の代替デバイスではない電話からコールし、Cisco Unity Connection にログインします。
- ステップ 2** メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[設定 (Preferences)]、[代行デバイス (Edit Alternate Devices)] の順に選択します。
- ステップ 3** プロンプトに従って、代替デバイスとして電話を追加するか、既存の代替デバイスの一覧表示と削除を行います。
-

ボイス コマンドを使用した代替デバイスの変更

-
- ステップ 1** コールをして Cisco Unity Connection にログインします。
- 代替デバイスを追加している場合は、プライマリ内線または既存の代替デバイスではない電話からコールします。
- ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
- 「SetupOptions」 (Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。
- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[設定オプション (Setup Options)]、[設定 (Preferences)]、[代行デバイス (Edit Alternate Devices)] の順に選択します。
- ステップ 4** プロンプトに従って、代替デバイスとして電話を追加するか、既存の代替デバイスの一覧表示と削除を行います。
- ヒント** インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。
-



第 14 章

Connection Conversation メニュースタイルの選択

- [Connection Conversation メニュースタイルについて \(65 ページ\)](#)
- [Connection カンバセーションのメニュースタイルの変更 \(65 ページ\)](#)

Connection Conversation メニュースタイルについて

電話のキーパッドを使用して Cisco Unity Connection と対話する場合は、標準ガイダンスまたは簡易ガイダンスのいずれかを聞くことができます。標準ガイダンスは理解しやすいプロンプトとインストラクションを提供するものであり、簡易ガイダンスは標準ガイダンスの簡易版です。

ボイス コマンドを使用して Connection と対話する場合は、標準ガイダンスが再生されます。

Connection カンバセーションのメニュースタイルの変更

Cisco Unity Connection のメニュースタイルを変更すると、電話のキーパッドを使用してシステムと対話する場合に再生される内容だけに影響します。ボイス コマンドを使用して Connection と対話する場合は、常に標準ガイダンスが再生されます。

電話のキーパッドを使用した Connection カンバセーションのメニュースタイルの変更

- ステップ 1 コールをして Connection にログインします。
 - ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[メッセージ設定 (Message Settings)]、[メニュースタイル (Menu Style)] オプションの順に選択します。
 - ステップ 3 指示に従って、標準ガイダンスと簡易ガイダンスを切り替えます。
-

ボイス コマンドを使用した Connection カンバセーションのメニュースタイルの変更

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「SetupOptions」 （Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[メッセージ設定（Message Settings）]、[メニュースタイル（Menu Style）]オプションの順に選択します。

ステップ 4 指示に従って、標準ガイダンスと簡易ガイダンスを切り替えます。

ヒント インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。



第 15 章

着信転送ルール管理

- [着信転送ルールの説明 \(67 ページ\)](#)
- [コール転送ルールに関する設定の変更 \(68 ページ\)](#)

着信転送ルールの説明

着信転送ルールは、直接ダイヤルしていない発信者（たとえば、ディレクトリを使用した発信）からの間接コールを Cisco Unity Connection でどのように処理するかを制御するルールです。直接コール（個人の電話番号をダイヤルして外部の発信者や他のユーザが電話をかけた場合）に対しては、Connection の転送ルールは適用されません。

間接的なコールに応答するか、ボイスメールへ即時に転送するかは選択できます。



ヒント 自分の内線への直接コールに着信転送を設定するには、Connection の管理者に問い合わせてください。自席の電話だけでなく、社内で使用する電話システムでも、直接コールの管理に使用できる転送機能を使用できる場合があります。

次に、3 つの着信転送ルールとその仕組みについて説明します。

標準転送ルール

この転送ルールは、Connection 管理者が指定した会社の営業時間内に有効になります。オンになっている転送ルールが他にない場合は、営業時間外もこの標準転送ルールが有効になります。

設計上、標準転送ルールはオフにすることができません。

オプション転送ルール

他の転送ルールを特定の期間内だけ優先させる場合は、この転送ルールをオンにします。たとえば、休暇中にかかってきたすべての電話をボイスメールに即時転送したり、一時的に別の場所で作業しているときにかかってきた電話を他の内線番号に転送したりすることができます。

オプション転送ルールをオンにすると、そのルールが常に適用されます。オプション転送ルールは他のどの転送ルールよりも優先されます。

時間外転送ルール

Connection 管理者が組織に指定した営業時間外にかかってきた間接的なコールの処理方法を設定するには、この転送ルールをオンにします（たとえば、営業時間外にかかってきたすべての電話をボイスメールに即時転送することができます）。

オンになっている場合、時間外転送ルールは営業時間外に適用されます。

コール転送ルールに関する設定の変更

間接的なコールを自分の内線に転送するか、指定した別の内線または電話番号に転送するか、あるいはボイスメールに即時転送するかを選択できます。ボイスメールに転送すると、電話の呼び出し音は鳴りません（コールをボイスメールに送信すれば、発信者は誰かが電話に出るまで待つ必要がありません。すぐにグリーティングが再生されます）。

電話のキーボードを使用した着信転送ルールの設定の変更

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション（Setup Options）]、[転送設定（Transfer Settings）]オプションの順に選択します。

ステップ 3 設定を変更する転送ルールを選択します。

ステップ 4 Connection で現在の転送設定がアナウンスされた後、指示に従ってルールの有効と無効の切り替え、転送先の変更（電話またはボイスメール）、または転送先電話番号の変更を行います。

（外線に転送する場合は、Connection 管理者に問い合わせてください）。

（注） 転送番号を変更しても、コールが電話機に転送されるのか、ボイスメールに送信されるのかは変更されません。Connection が着信を電話に転送するように指定してある場合に限り、Connection は転送番号に着信を転送します。

ボイス コマンドを使用した着信転送ルールの設定の変更

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「SetupOptions」（Connection が一時的に電話のキーボードに切り替わります）。

ステップ 3 電話のキーボードで、[転送設定（Transfer Settings）]オプションを選択します。

ステップ 4 設定を変更する転送ルールを選択します。

ステップ 5 Connection で現在の転送設定がアナウンスされた後、指示に従ってルールの有効と無効の切り替え、転送先の変更（電話またはボイスメール）、または転送先電話番号の変更を行います。

（外線に転送する場合は、Connection 管理者に問い合わせてください）。

（注） 転送番号を変更しても、コールが電話機に転送されるのか、ボイスメールに送信されるのかは変更されません。Connection が着信を電話に転送するように指定してある場合に限り、Connection は転送番号に着信を転送します。

ヒント インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。



第 16 章

緊急連絡先番号の管理

- [緊急連絡先番号について](#) (71 ページ)
- [緊急連絡先番号の変更](#) (71 ページ)

緊急連絡先番号について

緊急連絡先番号が設定されている場合、発信者はグリーティングの再生中にキーを押すことによって、別の電話番号にコールを転送することができます。緊急連絡先番号には、オペレータや別のユーザ（上司や同僚）の内線番号だけでなく、応対可能な他のユーザの電話番号も指定できます。

緊急連絡先番号へコールを転送するときに発信者が押すキーは、Cisco Unity Connection 管理者によって指定されます。最大 12 件（キーパッドのキー 1 つに対して 1 件）の緊急連絡先番号を指定できます。

緊急連絡先番号の変更

組織外の緊急連絡先番号を指定するには、外線通話に必要なアクセスコード（たとえば 9）から入力を始めます。日本語版では削除：For long-distance numbers, include the applicable dialing codes (for example, 1 and the area code).



ヒント 緊急連絡先番号を指定するときに、その情報を含めるようにグリーティングを更新することもできます（「ただいま席を外しております。発信音の後にメッセージを残してください。別の営業担当者に電話をつなぐ場合は 4 を押してください」）。

電話のキーパッドを使用した緊急連絡先番号の指定

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[緊急連絡先番号 (Alternate Contact Numbers)] の順に選択します。

(注) 緊急連絡先番号に転送するためのキーが 1 つ以上設定されている場合に限り、緊急連絡先番号を設定するように Connection から指示されます。

ステップ 3 指示に従って、緊急連絡先番号を 1 つ以上指定します。緊急連絡先番号への転送に使用できるキーがアナウンスされます。

ボイス コマンドを使用した緊急連絡先番号の指定

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「SetupOptions」 (Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[緊急連絡先番号 (Alternate Contact Numbers)] オプションを選択します。

(注) 緊急連絡先番号に転送するためのキーが 1 つ以上設定されている場合に限り、緊急連絡先番号を設定するように Connection から指示されます。

ステップ 4 指示に従って、緊急連絡先番号を 1 つ以上指定します。緊急連絡先番号への転送に使用できるキーがアナウンスされます。

ヒント インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。



第 17 章

着信コールを処理するパーソナル着信転送 ルールの設定の管理

- [パーソナル着信転送ルールの設定について](#) (73 ページ)
- [基本転送ルールにおけるパーソナル着信転送ルールの設定の有効化と無効化](#) (73 ページ)
- [パーソナル着信転送ルール設定の使用の有効化と無効化](#) (74 ページ)
- [個々のルール設定の有効化と無効化](#) (75 ページ)
- [\[全て転送 \(Transfer All\)\] ルール設定の使用](#) (77 ページ)
- [すべての着信の Cisco Unity Connection への転送](#) (79 ページ)

パーソナル着信転送ルールの設定について

パーソナル着信転送ルールを設定すると、Cisco Unity Connection で特定の着信コールを発信者の識別情報、時刻、会議スケジュールなどに基づいて転送したり、ボイスメールや別の電話番号に転送したりすることができます。パーソナル着信転送ルールは、基本転送設定を構成できる基本的な転送ルール（標準、オプション、時間外）よりも高度なルールです。

パーソナル着信転送ルールの設定は、パーソナル着信転送ルール Web ツールで管理します。ルール設定を定義した後は、Web ツールまたは電話でルールを有効にできます（パーソナル着信転送ルール設定の使用および管理方法に関する詳細については、『*User Guide for the Cisco Unity Connection Personal Call Transfer Rules Web Tool*』を参照してください）。

基本転送ルールにおけるパーソナル着信転送ルールの設定の有効化と無効化

Cisco Unity Connection では、パーソナル着信転送ルールは、現在アクティブな基本ルール（標準、オプション、時間外）で、基本設定の代わりにパーソナル着信転送ルールを使用するように指定されている場合にだけ適用されます。

電話のキーパッドを使用した基本転送ルールでのパーソナル着信転送ルールの設定の使用の有効化または無効化

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[転送設定 (Transfer Settings)] オプションの順に選択します。
- ステップ 3** 転送ルール (標準、オプション、または時間外) を選択します。
- ステップ 4** Connection によって現在の着信転送の設定がアナウンスされたら、指示に従ってパーソナル着信転送ルールの使用を有効または無効にします。
- ステップ 5** 必要に応じて、基本転送ルールごとにステップ 3 およびステップ 4 を繰り返します。
-

ボイス コマンドを使用した基本転送ルールでのパーソナル着信転送ルールの設定の使用の有効化または無効化

-
- ステップ 1** コールをして Connection にログインします。
- ステップ 2** Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
- 「SetupOptions」 (Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。
- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[転送設定 (Transfer Settings)] オプションを選択します。
- ステップ 4** 転送ルール (標準、オプション、または時間外) を選択します。
- ステップ 5** Connection によって現在の着信転送の設定がアナウンスされたら、指示に従ってパーソナル着信転送ルールの使用を有効または無効にします。
- ステップ 6** 必要に応じて、基本転送ルールごとにステップ 4 およびステップ 5 を繰り返します。
- ヒント** インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。
-

パーソナル着信転送ルール設定の使用の有効化と無効化

有効化とは、基本転送ルール (標準、オプション、時間外) で、基本設定の代わりにパーソナル着信転送ルールを使用するように指定されている場合に、Connection がパーソナル着信転送ルールの設定を使用して着信コールを処理することを意味します。無効化とは、基本転送ルールでパーソナル着信転送ルールを使用するように指定されている場合でも、Connection がパーソナル着信転送ルールを設定を使用せずに着信コールを処理することを意味します。この場合、着信コールは自分の内線番号に転送されます。

電話のキーパッドを使用したパーソナル着信転送ルールの設定の使用の有効化または無効化

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[転送設定 (Transfer Settings)]、[パーソナル着信転送ルール (Personal Call Transfer Rules)] オプションの順に選択します。

ステップ 3 有効にする場合は、Connection でルールがオフであることがアナウンスされた後、着信転送ルールをオンにするオプションを選択します。

無効にする場合は、[着信サービスのオフ (Turn Call Routing Rules Off)] オプションを選択します。

ボイスコマンドを使用したパーソナル着信転送ルールの設定の使用の有効化または無効化

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「SetupOptions」 (Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[転送設定 (Transfer Settings)]、[パーソナル着信転送ルール (Personal Call Transfer Rules)] オプションの順に選択します。

ステップ 4 有効にする場合は、Connection でルールがオフであることがアナウンスされた後、着信転送ルールをオンにするオプションを選択します。

無効にする場合は、[着信サービスのオフ (Turn Call Routing Rules Off)] オプションを選択します。

個々のルール設定の有効化と無効化

電話では一度に 1 つのルールセットだけをイネーブルにできます。ルールセットはただちにアクティブになります。Cisco Unity Connection は、ディセーブルになっているルールセットがある場合にだけ、ルール設定をイネーブルにするプロンプトを表示します。

ルール設定の無効化とは、そのルール設定をアクティブにできなくすることを意味します。Connection は、有効になっていてもアクティブではないルールがある場合にだけ、ルール設定をディセーブルにするためのプロンプトを再生します。

ルール設定が 1 つも定義されていない場合、またはアクティブになっていない場合、着信コールは内線に転送されます。

電話のキーパッドを使用したルール設定の有効化

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[転送設定 (Transfer Settings)]、[パーソナル着信転送ルール (Personal Call Transfer Rules)] オプションの順に選択します。

(注) Connection は、パーソナル着信転送ルールの設定が有効になっている場合に限り、ルール設定を有効にするためのプロンプトを再生します。

ステップ 3 [着信転送のルール設定を有効にする (Enable a Transfer Rule Set)] オプションを選択します。

ステップ 4 指示に従って、ルール設定をアクティブにし、ルール設定をアクティブにする日数を設定します。

ボイス コマンドを使用したルール設定の有効化

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「SetupOptions」 (Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[転送設定 (Transfer Settings)]、[パーソナル着信転送ルール (Personal Call Transfer Rules)] オプションの順に選択します。

(注) Connection は、パーソナル着信転送ルールの設定が有効になっている場合に限り、ルール設定を有効にするためのプロンプトを再生します。

ステップ 4 [着信転送のルール設定を有効にする (Enable a Transfer Rule Set)] オプションを選択します。

ステップ 5 指示に従って、ルール設定をアクティブにし、ルール設定をアクティブにする日数を設定します。

ヒント インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。

電話のキーパッドを使用したルール設定の無効化

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[転送設定 (Transfer Settings)]、[パーソナル着信転送ルール (Personal Call Transfer Rules)]、[転送ルールをキャンセル (Disable a Transfer Rule Set)] オプションの順に選択します。

(注) Connection は、有効にはなっていないアクティブではないルール設定がある場合にだけ、ルール設定を無効にするためのプロンプトを再生します。

ステップ 3 指示に従ってルール設定を無効にします。

ボイス コマンドを使用したルール設定の無効化

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「SetupOptions」 (Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[転送設定 (Transfer Settings)]、[パーソナル着信転送ルール (Personal Call Transfer Rules)]、[転送ルールをキャンセル (Disable a Transfer Rule Set)] オプションの順に選択します。

(注) Connection は、有効にはなっていないアクティブではないルール設定がある場合にだけ、ルール設定を無効にするためのプロンプトを再生します。

ステップ 4 指示に従ってルール設定を無効にします。

ヒント インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。

[全て転送 (Transfer All)] ルール設定の使用

[全て転送 (Transfer All)] ルール設定には、指定した期間内のすべての着信コールを特定の通知先に転送する 1 つのルールが含まれています。[全て転送 (Transfer All)] は電話でだけ設定する必要がある唯一のルール セットです。Cisco Unity Connection はルール セットを有効にして、パーソナル着信転送ルール Web ツールの [着信転送ルールの設定 (Call Transfer Rule Sets)] ページに表示します。

[全て転送 (Transfer All)] を有効にすると、ただちにそのルール設定が、指定した期間のアクティブなルール設定になります。[全て転送 (Transfer All)] の通知先で、転送された着信コールに対する応答がない場合、Connection はそのコールをボイスメールに転送します。

電話のキーパッドを使用した [全て転送 (Transfer All)] ルール設定の有効化

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[転送設定 (Transfer Settings)]、[パーソナル着信転送ルール (Personal Call Transfer Rules)] オプションの順に選択します。

ステップ 3 指示に従って、すべての着信コールをボイスメールまたは特定の電話番号に転送するように設定し、[全て転送 (Transfer All)] ルール設定をアクティブにする日数を指定します。

ヒント 1日は午後 11 時 59 分に終わるため、1日という期間は当日の終わり（午後 11 時 59 分）までを指します。2日間は次の日の終わりまでを指し、以下同様に続きます。期間には 1 ～ 999 の日数を入力できます。

ボイス コマンドを使用した [全て転送 (Transfer All)] ルール設定の有効化

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「SetupOptions」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[転送設定 (Transfer Settings)]、[パーソナル着信転送ルール (Personal Call Transfer Rules)] オプションの順に選択します。

ステップ 4 指示に従って、すべての着信コールをボイスメールまたは特定の電話番号に転送するように設定し、[全て転送 (Transfer All)] ルール設定をアクティブにする日数を指定します。

ヒント 1日は午後 11 時 59 分に終わるため、1日という期間は当日の終わり（午後 11 時 59 分）までを指します。2日間は次の日の終わりまでを指し、以下同様に続きます。期間には 1 ～ 999 の日数を入力できます。

ヒント インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。

電話のキーパッドを使用した [全て転送 (Transfer All)] ルール設定の無効化

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[転送設定 (Transfer Settings)]、[パーソナル着信転送ルール (Personal Call Transfer Rules)]、[この番号への全ての転送をキャンセル (Cancel Transferring All Calls to This Destination)] オプションの順に選択します。

ボイス コマンドを使用した [全て転送 (Transfer All)] ルール設定の無効化

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「SetupOptions」 (Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[転送設定 (Transfer Settings)]、[パーソナル着信転送ルール (Personal Call Transfer Rules)]、[すべての着信を電話番号に転送をキャンセル (Cancel Transferring All Calls to This Destination)] オプションの順に選択します。

ヒント インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。

すべての着信の Cisco Unity Connection への転送

すべての着信を Cisco Unity Connection に転送して、パーソナル着信転送ルールを即時に適用できます。このオプションを使用すると、応答がないときにパーソナル着信転送ルールを適用して通知先を検出する前に、内線番号が呼び出されなくなります。

電話のキーパッドを使用した Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション (Setup Options)]、[転送設定 (Transfer Settings)]、[パーソナル着信転送ルール (Personal Call Transfer Rules)] オプションの順に選択します。

ステップ 3 指示に従って、Connection へのすべての着信の転送を有効にし、転送をアクティブにする日数を設定します。

ヒント 1 日は午後 11 時 59 分に終わるため、1 日という期間は当日の終わり (午後 11 時 59 分) までを指します。2 日間は次の日の終わりまでを指し、以下同様に続きます。期間には 1 ~ 999 の日数を入力できます。

ボイス コマンドを使用した Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「Setup Options」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[転送設定（Transfer Settings）]、[パーソナル着信転送ルール（Personal Call Transfer Rules）] オプションの順に選択します。

ステップ 4 指示に従って、Connection へのすべての着信の転送を有効にし、転送をアクティブにする日数を設定します。

ヒント 1 日は午後 11 時 59 分に終わるため、1 日という期間は当日の終わり（午後 11 時 59 分）までを指します。2 日間は次の日の終わりまでを指し、以下同様に続きます。期間には 1 ～ 999 の日数を入力できます。

ヒント インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。

電話のキーパッドを使用した Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送のキャンセル

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 メインメニューで、[設定オプション（Setup Options）]、[転送設定（Transfer Settings）]、[パーソナル着信転送ルール（Personal Call Transfer Rules）]、[すべての着信の Cisco Unity Connection への転送をキャンセル（Cancel Forwarding All Calls to Cisco Unity Connection）] オプションの順に選択します。

ボイス コマンドを使用した Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送のキャンセル

ステップ 1 コールをして Connection にログインします。

ステップ 2 Connection で「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「SetupOptions」（Connection が一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[転送設定 (Transfer Settings)]、[パーソナル着信転送ルール (Personal Call Transfer Rules)]、[すべての着信をCiscoUnityConnectionへ転送をキャンセル (Cancel Forwarding All Calls to Cisco Unity Connection)] オプションの順に選択します。

ヒント インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。



第 18 章

再生設定の変更

- 再生設定について (83 ページ)
- 個々のメッセージの再生音量の変更 (83 ページ)
- 個々のメッセージの再生速度の変更 (84 ページ)
- **Connection** カンバセーションの再生音量の変更 (85 ページ)
- **Connection** カンバセーションの再生速度の変更 (86 ページ)

再生設定について

再生設定によって、次の再生音量と再生速度を変更できます。

- 再生時の個々のメッセージ。
- **Connection** がプロンプトを再生している間、いつでも現在の電話セッションのカンバセーション。

個々のメッセージの再生の変更は、同じ電話セッション中に再生する他のメッセージの再生には影響しません。カンバセーションの再生の変更は電話を切るまで有効です。次回 **Connection** に発信するときには、再生設定がデフォルトの状態にリセットされます。



(注) カンバセーションの速度または音量を調整する場合は、ボイス コマンドを使用します。電話のキーパッドは使用できません。

個々のメッセージの再生音量の変更

電話でメッセージを聞く場合には、メッセージの音量を調整できます。音量を変更しても、同じセッションで別のメッセージを聞く場合には、その再生音量には影響しません。

電話のキーパッドを使用した個々のメッセージの再生音量の変更

再生音量の調整で押すキーは、カンバセーションによって異なります。再生音量の変更に割り当てられているキーについては、システム管理者に問い合わせてください。メッセージが再生されている間、次の音量設定の間で切り替えを行えます。

オプション	説明
キーを一度押す	音量が上がります。
キーをもう一度押す	音量が下がります。
キーをもう一度押す	音量が標準に戻ります。

ボイス コマンドを使用した個々のメッセージの再生音量の変更

メッセージが再生されている間に、次のボイス コマンドを使用します。

操作	コマンド
音量を変更する	「Louder」または「Softer」
再生音量をデフォルト設定にリセットする（一部のシステムでは使用不可）	「Reset volume」

個々のメッセージの再生速度の変更

メッセージを電話で聞く場合には、メッセージの再生速度を調整できます。速度を変更しても、同じセッションで別のメッセージを聞く場合には、その再生速度には影響しません。

電話のキーパッドを使用した個々のメッセージの再生速度の変更

再生速度を調整するために押下するキーは、カンバセーションによって異なります。再生速度を変更するためにどのキーが割り当てられているかをシステム管理者に問い合わせてください。メッセージを再生中に、次の速度設定を使用します。

オプション	説明
減速キーを押す	メッセージを低速で再生します。
高速キーを一度押す	メッセージを高速で再生します。
高速キーをもう一度押す	メッセージをより高速で再生します。

ボイス コマンドを使用した個々のメッセージの再生速度の変更

メッセージが再生されている間に、次のボイス コマンドを使用します。

操作	コマンド
再生速度を下げる	「Slower」
再生速度を上げる	「Faster」
再生速度をリセットする	「Reset speed」

ヒント 再生速度は、メッセージが記録された速度、低速（1つ）、高速（2つ）の4つの速度があります。

Connection カンバセーションの再生音量の変更

Connection がプロンプトを再生している間に、いつでもボイス コマンドを使用して、Cisco Unity Connection カンバセーションの音量を変更できます（電話のキーパッドを使用して、カンバセーションの音量を調整することはできません）。

変更は電話を切るまで有効です。次回 Connection に発信すると、音量はデフォルト設定にリセットされます。

ボイス コマンドを使用したカンバセーション再生音量の変更

プロンプトが再生されている間に、次のボイス コマンドを使用します。

操作	コマンド
音量を変更する	「Louder」または「Softer」

操作	コマンド
再生音量をデフォルト設定にリセットする（一部のシステムでは使用不可）	「Reset volume」

Connection カンバセーションの再生速度の変更

Connection がプロンプトを再生している間に、いつでもボイス コマンドを使用して、Cisco Unity Connection カンバセーションの速度を変更できます（電話のキーパッドを使用して、カンバセーションの速度を調整することはできません）。

変更は電話を切るまで有効です。次回 Connection に発信すると、速度はデフォルト設定にリセットされます。

ボイス コマンドを使用したカンバセーション再生速度の変更

プロンプトが再生されている間に、次のボイス コマンドを使用します。

操作	コマンド
速度を変更する	「Slower」または「Faster」
再生速度をデフォルト設定にリセットする	「Reset speed」



第 19 章

ブロードキャストメッセージ

・ブロードキャストメッセージについて (87 ページ)

ブロードキャストメッセージについて

社内の Cisco Unity Connection 管理者、ネットワーク管理者、経営者から、ブロードキャストメッセージと呼ばれるボイスメッセージを受信することがあります。ブロードキャストメッセージとは、社内の全員に送信される録音済みの通知です。たとえば、Connection 管理者がすべてのユーザに暗証番号を変更するよう求めるメッセージを送信したり、人事部長が新しい手当の締め切りについて案内するメッセージを送信したりできます。

ブロードキャストメッセージは、電話を使用して Connection にログインすると、すぐに再生されます。すべてのブロードキャストメッセージを完全に聞くまでは、Connection で新しいメッセージや保存されたメッセージを確認したり、セットアップオプションを変更したりすることはできません。ブロードキャストメッセージは、一度再生すると完全に削除されます。ブロードキャストメッセージに返信することはできず、ブロードキャストメッセージを保存することもできません。

ブロードキャストメッセージが届いても、電話機のメッセージインジケータは点灯しません（たとえば、ライトが点灯することも、受話器を取り上げたときに特別なダイヤルトーンが再生されることもありません）。

音声認識オプションを使用している場合、ボイスコマンドを使用してブロードキャストメッセージを削除することはできません。代わりに、メッセージの再生が終了すると、#を押すよう求められます。メッセージが削除されたら、引き続きボイスコマンドを使用して、他のメッセージを再生および管理することができます。



第 20 章

メールボックスのサイズの管理

- [メールボックスのサイズについて \(89 ページ\)](#)
- [メールボックスがすぐに一杯になってしまう理由 \(89 ページ\)](#)

メールボックスのサイズについて

メールボックスが一杯になっていると、Cisco Unity Connection がメッセージを処理するスピードに影響を及ぼす場合があります。電話機を使用してログインするとき、メールボックスが次の状態の場合は、Connection によって通知されます。

- 間もなく一杯になる場合
- 一杯になり、新しいメッセージを送信できない場合
- 一杯になり、新しいメッセージを送受信できない場合

メールボックスの容量制限は、Connection 管理者により設定されます。これらの制限を超えると、メッセージの送受信ができなくなる場合があります。



(注) ブロードキャスト メッセージはメールボックス全体のサイズに含まれません。

メールボックスがすぐに一杯になってしまう理由

Cisco Unity Connection メールボックスが予想よりも速く満杯になっていると感じる場合には、次に示す理由が当てはまる場合があります (メールボックスのサイズは Connection 管理者によって指定されます)。

メッセージ保存ポリシーが適用されていない可能性がある

Connection のデフォルト設定では、一定の経過時間に達した場合にメッセージを自動的に削除することはありません。つまり、Connection 管理者がメッセージ保存ポリシーを適用するようにシステムを設定しない限りは、ユーザ自身が定期的に開封済みメッセージを確認し、メッ

セージを移動、アーカイブ、または完全に削除することによって、メールボックスのサイズを管理する必要があります。

メッセージ保存ポリシーを適用するように Connection が設定されている場合は、Connection 管理者に、メッセージが完全に削除されるまでの期間を確認してください。これで、重要なメッセージのアーカイブや移動を前もって計画できます。（Connection は、メッセージ保存ポリシーが適用されることを通知しません。また、このポリシーを実行した結果、メッセージが完全に削除されることも警告しません）。

不達確認がメールボックス全体のサイズに含まれる

送信済みメッセージの不達確認（NDR）を受信した場合、特に元のメッセージに大きいファイルが添付されていると、メールボックスのサイズはすぐに大きくなります。

メッセージの転送時に元のメッセージがメッセージ全体のサイズに含まれる

何度も繰り返し転送されて、サイズが増えたメッセージを受信する場合があります。元のメッセージに、転送中に追加されたすべての録音済みコメントを加えたサイズが、メッセージの合計サイズになります。そのため、保存されているメッセージの数が比較的少ない場合でも、メールボックスが制限を超える可能性があります。

合計メッセージ サイズに添付ファイルが含まれる

スプレッドシート、ドキュメント、FAX、および写真などの添付ファイルを含むメッセージを受信する可能性があります。この場合、メッセージにすべての添付ファイルを加えたサイズがメッセージの合計サイズになります。そのため、保存されているメッセージの数が比較的少ない場合でも、メールボックスが制限を超える可能性があります。



第 21 章

Cisco Unity Connection 電話メニューとボイス コマンド

- 電話メニューとボイス コマンド テーブルについて (91 ページ)
- 標準カンバセーション用電話メニュー (91 ページ)
- クラシック カンバセーション用電話メニュー (96 ページ)
- オプション カンバセーション 1 用電話メニュー (101 ページ)
- 代行キーパッド マッピング N 用電話メニュー (106 ページ)
- 代行キーパッド マッピング X 用電話メニュー (108 ページ)
- 代行キーパッド マッピング S 用電話メニュー (111 ページ)
- ボイス コマンド (114 ページ)
- ビデオメッセージと電話メニュー (120 ページ)

電話メニューとボイス コマンド テーブルについて

このテーブルでは、電話でメッセージおよび個人用オプションを管理するために最も頻繁に使用されるボイス コマンド、メニュー、およびショートカットについて、Cisco Unity Connection のカンバセーションのバージョンごとに説明します。

どのカンバセーションバージョンを使うよう設定されているかについては、Connection の管理者に問い合わせてください。

標準カンバセーション用電話メニュー

- メイン メニューとショートカット (標準カンバセーション) (92 ページ)
- メッセージ送信のメニューとショートカット (標準カンバセーション) (93 ページ)
- メッセージ再生中のメニューとショートカット (標準カンバセーション) (93 ページ)
- メッセージ再生後のメニューとショートカット (標準カンバセーション) (95 ページ)
- 録音メニュー (標準カンバセーション) (96 ページ)

メインメニューとショートカット（標準カンパセーション）

改訂：2010 年 11 月 16 日

メインメニューが再生されている間に、次のキーを押します。

操作	キー
新しいメッセージの再生	1
メッセージの送信	2
開封済みメッセージの確認	3 1
削除されたメッセージを確認する (一部のシステムでは使用不可)	3 2
セットアップ オプションの変更	4
グリーティングを変更する	4 1
オプション グリーティングをオンまたはオフにする	4 1 2
他のグリーティングを編集する	4 1 3
メッセージ通知を変更する	4 2 1
ファクス配信を変更する (一部のシステムでは使用不可)	4 2 2
標準ガイダンスまたは簡易ガイダンスを選択する	4 2 3
暗証番号を変更する	4 3 1
録音名を変更する	4 3 2
着信転送を変更する	4 4
Connection ユーザからのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 1
すべての外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 2
特定の外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 3
会議を再生する (一部のシステムでは使用不可)	6

操作	キー
外部メッセージを聞く (一部のシステムでは使用不可)	7
電話のキーパッドとボイス コマンドの使用を切り替える (Connection 8.5 以降) (一部のシステムでは使用不可)	9

メッセージ送信のメニューとショートカット (標準カンバセーション)

メッセージを録音し、宛先を指定した後、次のキーを押します。

操作	キー
メッセージを送信する	#
名前を追加する	9 1
メッセージに緊急のマークを付ける	1
受信確認の返信を要求する	2
メッセージにプライベートのマークを付ける	3
将来の配信を設定する	4
録音を確認する	5
再録音する	6
メッセージに追加する	7
メッセージを暗号化する	9 3

メッセージ再生中のメニューとショートカット (標準カンバセーション)

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

操作	キー
最初からメッセージを再生する	1
番号でメッセージを再生する	1 2
前のメッセージの再生	1 4
次のメッセージの再生	1 6
保存 (Save)	2

操作	キー
削除	3
返信	4
全員に返信する	4 2
送信者に電話を返す	4 4
メッセージの転送	5
再生速度を下げる	6 4
再生速度を上げる	6 6
音量を変更する (一部のシステムでは使用不可)	6 5
音量をデフォルト レベルに戻す (一部のシステムでは使用不可)	6 3
メッセージの巻き戻し	7
一時停止/再開する	8
早送りする	9
最後まで早送りする	#
最初のメッセージを再生	1 7
最後のメッセージを再生	1 9
緊急ステータスを切り替える	1 8
メッセージをスキップし、開封済みメッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	# 2
メッセージをスキップし、新規メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	6
メッセージをスキップし、そのまま保存	# #
印刷のためにファクスをファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	6 8
メッセージ プロパティを再生	1 5
キャンセルまたは 1 つ戻る	*

操作	キー
ヘルプ	0

メッセージ再生後のメニューとショートカット（標準カンバセーション）

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

操作	キー
再度メッセージを再生する	1
番号でメッセージを再生する	1 2
前のメッセージの再生	1 4
次のメッセージの再生	1 6
最初のメッセージを再生	1 7
最後のメッセージを再生	1 9
緊急ステータスを切り替える	1 8
開封済みメッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	2
削除	3
返信	4
全員に返信する	4 2
送信者を呼び出す (一部のシステムでは使用不可)	4 4
メッセージの転送	5
新規メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	6
巻き戻す	7
印刷のためにファクスをファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	6 8
メッセージ プロパティを再生	1 5
そのまま保存する	#

操作	キー
キャンセルまたは1つ戻る	*
ヘルプ	0

録音メニュー（標準カンバセーション）

メッセージ、名前、およびグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

操作	キー
一時停止/再開する	8
録音を終了する	#

クラシック カンバセーション用電話メニュー

- [メインメニューとショートカット（クラシック カンバセーション）](#)（96 ページ）
- [メッセージ送信のメニューとショートカット（クラシック カンバセーション）](#)（97 ページ）
- [メッセージ再生中のメニューとショートカット（クラシック カンバセーション）](#)（98 ページ）
- [メッセージ再生後のメニューとショートカット（クラシック カンバセーション）](#)（100 ページ）
- [録音メニュー（クラシック カンバセーション）](#)（101 ページ）

メインメニューとショートカット（クラシック カンバセーション）

改訂：2010 年 11 月 16 日

メインメニューが再生されている間に、次のキーを押します。

操作	キー
新しいメッセージの再生	1
メッセージの送信	2
開封済みメッセージの確認	3 1
削除されたメッセージを確認する (一部のシステムでは使用不可)	3 2

操作	キー
セットアップ オプションの変更	4
グリーティングを変更する	4 1
オプション グリーティングをオンまたはオフにする	4 1 2
他のグリーティングを編集する	4 1 3
メッセージ通知を変更する	4 2 1
ファクス配信を変更する (一部のシステムでは使用不可)	4 2 2
標準ガイダンスまたは簡易ガイダンスを選択する	4 2 3
暗証番号を変更する	4 3 1
録音名を変更する	4 3 2
着信転送を変更する	4 4
Connection ユーザからのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 1
すべての外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 2
特定の外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 3
会議を再生する (一部のシステムでは使用不可)	6
外部メッセージを聞く (一部のシステムでは使用不可)	7
電話のキーパッドとボイス コマンドの使用を切り替える (Connection 8.5 以降) (一部のシステムでは使用不可)	9

メッセージ送信のメニューとショートカット (クラシック カンバセーション)

メッセージを録音し、宛先を指定した後、次のキーを押します。

操作	キー
メッセージを送信する	#
名前を追加する	9 1
メッセージに緊急のマークを付ける	1
受信確認の返信を要求する	2
メッセージにプライベートのマークを付ける	3
将来の配信を設定する	4
録音を確認する	5
再録音する	6
メッセージに追加する	7
メッセージを暗号化する	9 3

メッセージ再生中のメニューとショートカット（クラシックカンバセーション）

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

操作	キー
最初からメッセージを再生する	1
番号でメッセージを再生する	1 2
前のメッセージの再生	1 4
次のメッセージの再生	1 6
保存 (Save)	2
削除	3
再生速度を下げる	4
音量を変更する (一部のシステムでは使用不可)	5
再生速度を上げる	6
メッセージの巻き戻し	7
一時停止/再開する	8
早送りする	9

操作	キー
最後まで早送りする	#
開封済みメッセージとして復元する (一部のシステムでは使用不可)	# 2
返信	# 4
全員に返信する	# 4 2
メッセージの転送	# 5
新規メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	# 6
印刷のためにファクスをファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	# 8
メッセージプロパティを再生	# 9
メッセージをスキップし、そのまま保存	# #
キャンセルまたは1つ戻る	*
ヘルプ	0

ビデオメッセージの場合は、次のプロンプトが表示されます。

メッセージ再生中のメニューとショートカット（クラシック カンバセーション）

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

操作	キー
最初からメッセージを再生する	1
番号でメッセージを再生する	1 2
前のメッセージの再生	1 4
次のメッセージの再生	1 6
保存 (Save)	2
削除	3
再生速度を下げる	4
音量を変更する	5

操作	キー
(一部のシステムでは使用不可)	
再生速度を上げる	6
メッセージの巻き戻し	7
一時停止/再開する	8
早送りする	9
最後まで早送りする	#
開封済みメッセージとして復元する (一部のシステムでは使用不可)	# 2
返信	# 4
全員に返信する	# 4 2
メッセージの転送	# 5
新規メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	# 6
印刷のためにファクスをファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	# 8
メッセージプロパティを再生	# 9
メッセージをスキップし、そのまま保存	# #
キャンセルまたは1つ戻る	*
ヘルプ	0

メッセージ再生後のメニューとショートカット (クラシックカンバセーション)

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

操作	キー
再度メッセージを再生する	1
番号でメッセージを再生する	1 2
前のメッセージの再生	1 4
次のメッセージの再生	1 6

操作	キー
開封済みメッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	2
削除	3
返信	4
全員に返信する	4 2
送信者を呼び出す (一部のシステムでは使用不可)	4 4
メッセージの転送	5
新規メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	6
巻き戻す	7
印刷のためにファクスをファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	8
メッセージ プロパティを再生	9
そのまま保存する	#
キャンセルまたは 1 つ戻る	*
ヘルプ	0

録音メニュー (クラシック カンバセーション)

メッセージ、名前、およびグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

操作	キー
一時停止/再開する	8
録音を終了する	#

オプション カンバセーション 1 用電話メニュー

- ・ [メイン メニューとショートカット \(オプション カンバセーション 1\)](#) (102 ページ)

- [メッセージ送信のメニューとショートカット（オプションカンバセーション1）](#)（103 ページ）
- [メッセージ再生中のメニューとショートカット（オプション カンバセーション 1）](#)（103 ページ）
- [メッセージ再生後のメニューとショートカット（オプション カンバセーション 1）](#)（105 ページ）
- [録音メニュー（オプション カンバセーション 1）](#)（106 ページ）

メイン メニューとショートカット（オプション カンバセーション 1）

改訂：2010 年 11 月 16 日

メイン メニューが再生されている間に、次のキーを押します。

操作	キー
新しいメッセージの再生	1
メッセージの送信	2
開封済みメッセージの確認	3 1
削除されたメッセージを確認する (一部のシステムでは使用不可)	3 2
セットアップ オプションの変更	4
グリーティングを変更する	4 1
オプション グリーティングをオンまたはオフにする	4 1 2
メッセージ通知を変更する	4 2 1
ファクス配信を変更する (一部のシステムでは使用不可)	4 2 2
標準ガイダンスまたは簡易ガイダンスを選択する	4 2 3
暗証番号を変更する	4 3 1
録音名を変更する	4 3 2
着信転送を変更する	4 4
Connection ユーザからのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 1
すべての外部発信者からのメッセージを検索する	5 2

操作	キー
(一部のシステムでは使用不可)	
特定の外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 3
会議を再生する (一部のシステムでは使用不可)	6
外部メッセージを聞く (一部のシステムでは使用不可)	7
電話のキーパッドとボイス コマンドの使用を切り替える (Connection 8.5 以降) (一部のシステムでは使用不可)	9

メッセージ送信のメニューとショートカット (オプション カンバセーション1)

メッセージの宛先を指定し、録音が完了した後に、次のキーを押します。

操作	キー
メッセージを送信する	#
名前を追加する	9 1
メッセージに緊急のマークを付けて送信する	1 #
受信確認を要求して送信する	2 #
メッセージにプライベートのマークを付けて送信する	3 #
将来の配信を設定する	4
録音を確認する	5
再録音する	6
メッセージに追加する	7
メッセージを暗号化する	9 3

メッセージ再生中のメニューとショートカット (オプション カンバセーション1)

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

操作	キー
巻き戻す	1
番号でメッセージを再生する	1 2
前のメッセージの再生	1 4
次のメッセージの再生	1 6
一時停止/再開する	2
早送りする	3
最後まで早送りする	3 3
印刷のためにファクスをファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	3 3 2
メッセージの転送	3 3 6
メッセージの削除	3 3 7
返信	3 3 8
全員に返信する	3 3 8 2
開封済みメッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	3 3 9
再生速度を下げる	4
再生速度を遅くする	4 4
メッセージ プロパティを再生	5
再生速度を上げる	6
再生速度を速くする	6 6
音量を下げる (一部のシステムでは使用不可)	7
音量をリセットする (一部のシステムでは使用不可)	8
音量を上げる (一部のシステムでは使用不可)	9
メッセージをスキップし、そのまま保存	#

操作	キー
メッセージをスキップして、新規メッセージとして保存する（新規および開封済みメッセージ）	##
キャンセルまたは 1 つ戻る	*
ヘルプ	0

メッセージ再生後のメニューとショートカット（オプション カンバセーション 1）

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

操作	キー
戻る	1
番号でメッセージを再生する	1 2
前のメッセージの再生	1 4
次のメッセージの再生	1 6
印刷のためにファクスをファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	2
再度メッセージを再生する	4
メッセージ プロパティを再生	5
メッセージの転送	6
削除	7
返信	8
全員に返信する	8 2
送信者を呼び出す (一部のシステムでは使用不可)	8 8
開封済みメッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	9
そのまま保存する	#
新規メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	##

操作	キー
キャンセルまたは1つ戻る	*
ヘルプ	0

録音メニュー（オプションカンバセーション1）

メッセージ、名前、およびグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

操作	キー
一時停止/再開する	8
録音を終了する	#

代行キーパッド マッピング N 用電話メニュー

- [メインメニューとショートカット（代行キーパッドマッピング N）](#)（106 ページ）
- [メッセージ再生中のメニューとショートカット（代行キーパッドマッピング N）](#)（107 ページ）
- [メッセージ再生後のメニューとショートカット（代行キーパッドマッピング N）](#)（107 ページ）
- [録音メニュー（代行キーパッドマッピング N）](#)（108 ページ）

メインメニューとショートカット（代行キーパッド マッピング N）

改訂：2010 年 11 月 16 日

メインメニューが再生されている間に、次のキーを押します。

操作	キー
新しいメッセージの再生	1
メッセージの送信	2
開封済みメッセージおよび削除されたメッセージを確認する （一部のシステムでは使用不可）	3
セットアップ オプションの変更	4
Connection ユーザからのメッセージを検索する （一部のシステムでは使用不可）	5 1

操作	キー
すべての外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 2
特定の外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	5 3
会議を再生する (一部のシステムでは使用不可)	6
電話のキーパッドとボイス コマンドの使用を切り替える (Connection 8.5 以降) (一部のシステムでは使用不可)	9
終了	*
メニューを繰り返す	#
メイン メニューのヘルプ	0

メッセージ再生中のメニューとショートカット (代行キーパッドマッピング N)

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

操作	キー
メッセージの巻き戻し	1
早送りする	3
メッセージをスキップし、そのまま保存	6
返信	7 1
送信者を呼び出す (一部のシステムでは使用不可)	9
キャンセルまたは 1 つ戻る	#
演算子	0

メッセージ再生後のメニューとショートカット (代行キーパッドマッピング N)

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

操作	キー
巻き戻す	4

操作	キー
そのまま保存する	6
送信者を呼び出す (一部のシステムでは使用不可)	9
メッセージ プロパティを再生	7 0
返信	7 1
再度メッセージを再生する	7 2
メッセージの転送	7 3
全員に返信する	7 4
削除	7 6
開封済みメッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	7 7
新規メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	7 8
キャンセルまたは 1 つ戻る	*
演算子	0

録音メニュー (代行キーパッド マッピング N)

メッセージ、名前、およびグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

操作	キー
一時停止/再開する	8
録音を終了する	#

代行キーパッド マッピング X 用電話メニュー

- [メインメニューとショートカット \(代行キーパッド マッピング X\)](#) (109 ページ)
- [メッセージ再生中のメニューとショートカット \(代行キーパッド マッピング X\)](#) (109 ページ)

- [メッセージ再生後のメニューとショートカット（代行キーパッド マッピング X）](#)（110 ページ）
- [録音メニュー（代行キーパッド マッピング X）](#)（111 ページ）

メイン メニューとショートカット（代行キーパッド マッピング X）

改訂：2010 年 11 月 16 日

メイン メニューが再生されている間に、次のキーを押します。

操作	キー
メッセージの送信	1
新しいメッセージの再生	2
開封済みメッセージおよび削除されたメッセージを確認する (一部のシステムでは使用不可)	3
セットアップ オプションを変更する	5
Connection ユーザからのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	8 1
すべての外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	8 2
特定の外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	8 3
電話のキーパッドとボイス コマンドの使用を切り替える (Connection 8.5 以降) (一部のシステムでは使用不可)	9
終了	*
メニューを繰り返す	#
メイン メニューのヘルプ	0

メッセージ再生中のメニューとショートカット（代行キーパッド マッピング X）

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

操作	キー
メッセージ本文までスキップする	2

操作	キー
一時停止/再開する	3
音量を上げる (一部のシステムでは使用不可)	4
メッセージの巻き戻し	5
早送りする	6
音量を下げる (一部のシステムでは使用不可)	7
再生速度を下げる	8
再生速度を上げる	9
メッセージの最後まで早送りする	#

メッセージ再生後のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング X)

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

操作	キー
開封済みメッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	1
番号でメッセージを再生する	1 2
前のメッセージの再生	1 4
次のメッセージの再生	1 6
メッセージの転送	2
再度メッセージを再生する	2 3
削除	3
新規メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	4
巻き戻す	5
そのまま保存する	6
返信	7

操作	キー
キャンセルまたは1つ戻る	#

録音メニュー（代行キーパッド マッピング X）

メッセージ、名前、およびグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

操作	キー
一時停止/再開する	8
録音を終了する	#

代行キーパッド マッピング S 用電話メニュー

- [メイン メニューとショートカット（代行キーパッド マッピング S）](#)（111 ページ）
- [メッセージ再生中のメニューとショートカット（代行キーパッド マッピング S）](#)（112 ページ）
- [メッセージ再生後のメニューとショートカット（代行キーパッド マッピング S）](#)（113 ページ）
- [録音メニュー（代行キーパッド マッピング S）](#)（113 ページ）

メイン メニューとショートカット（代行キーパッド マッピング S）

改訂：2010 年 11 月 16 日

メイン メニューが再生されている間に、次のキーを押します。

操作	キー
電話のキーパッドとボイス コマンドの使用を切り替える（Connection 8.5 以降） (一部のシステムでは使用不可)	1
開封済みメッセージおよび削除されたメッセージを確認する (一部のシステムでは使用不可)	3
セットアップ オプションの変更	4
新しいメッセージの再生	5
メッセージの送信	6

操作	キー
Connection ユーザからのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	8 1
すべての外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	8 2
特定の外部発信者からのメッセージを検索する (一部のシステムでは使用不可)	8 3
終了	9
メニューを繰り返す	#
メイン メニューのヘルプ	0

メッセージ再生中のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング S)

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

操作	キー
メッセージの転送	1 3
送信者を呼び出す (一部のシステムでは使用不可)	1 4
前のメッセージの再生	1 5
返信	1 7
メッセージの巻き戻し	2
メッセージ本文をスキップする	2 2
削除	3
早送りする	4
メッセージをスキップし、そのまま保存	5
開封済みメッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	7
メッセージ フッターまでスキップする	8
メッセージの最後まで早送りする	#

操作	キー
一時停止/再開する	*

メッセージ再生後のメニューとショートカット（代行キーパッド マッピング S）

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

操作	キー
メッセージの転送	1 3
前のメッセージの再生	1 5
返信	1 7
メッセージの巻き戻し	2
再度メッセージを再生する	2 2
削除	3
全員に返信する	4 2
送信者を呼び出す (一部のシステムでは使用不可)	4 4
そのまま保存する	5
新規メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	6
開封済みメッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	7
印刷のためにファクスをファクス機に送信する (一部のシステムでは使用不可)	8
メッセージ プロパティを再生	9
キャンセルまたは 1 つ戻る	*

録音メニュー（代行キーパッド マッピング S）

メッセージ、名前、およびグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

操作	キー
一時停止/再開する	8
録音を終了する	#

ボイス コマンド

この表では、音声認識インプットスタイルを使用している場合に、次のメニューに対応するボイス コマンドおよび該当するキーを一覧表示します。

- [メイン メニュー \(ボイス コマンド\) \(114 ページ\)](#)
- [メッセージ送信のメニュー \(ボイス コマンド\) \(116 ページ\)](#)
- [メッセージ再生中のメニュー \(ボイス コマンド\) \(117 ページ\)](#)
- [会議リマインダ中のメニュー \(ボイス コマンド\) \(118 ページ\)](#)
- [メッセージ再生後のメニュー \(ボイス コマンド\) \(118 ページ\)](#)
- [ユニバーサル アクション \(ボイス コマンド\) \(119 ページ\)](#)

メイン メニュー (ボイス コマンド)

選択コマンドについては、ボイス コマンドをオフにせずに、対応するキーを押します。利用可能なコマンドおよび対応するキーについては、Connection 管理者に問い合わせるか、「Touchtone command Help」と発音できます。

メイン メニューが再生されている間に、次を発音します。

操作	ボイス コマンド
ボイス コマンドのチュートリアルを再生する	「Tutorial」
ボイス メッセージ、電子メール、ファクス*、外部メッセージ*、受信確認、会議*を再生する (*一部のシステムでは使用不可)	
すべての新規メッセージを再生する	「Play new messages」
すべてのメッセージを再生する (新しいメッセージおよび開封済みメッセージ)	「Play all messages」
Connection ユーザからの新しいボイス メッセージ、開封済みボイス メッセージ、または削除されたボイス メッセージを再生する	「Play <new/saved/deleted> messages from <name of user>」
ボイス メッセージを送信する	「Send a message」

操作	ボイス コマンド
開封済みボイスメッセージ、電子メール、ファクス*、外部メッセージ*、受信確認を再生する (*一部のシステムでは使用不可)	
すべての開封済みメッセージを再生する	「Play saved messages」
削除済みボイスメッセージ、電子メール、ファクス*、外部メッセージ**、受信確認を再生する (*一部のシステムでは使用不可)	
削除されたメッセージをすべて再生する (一部のシステムでは使用不可)	「Play deleted messages」
すべてのグリーティングを再生する	「Play all greetings」
特定のグリーティングを再生する	「Play <greeting name> greeting」
標準グリーティングを再生する	「Play my greeting」
新しいグリーティングを録音する	「Record <greeting name> greeting」
標準グリーティングを録音する	「Record my greeting」
グリーティングをオンまたはオフにする	「Turn on <greeting name> greeting」 「Turn off <greeting name> greeting」
システム デフォルト グリーティングを使用する	「Use default <greeting name> greeting」
標準グリーティングとしてシステムデフォルトグリーティングを使用する	「Use my default greeting」
グリーティングを使用せず、発信者にはメッセージを残すように合図する発信音だけを再生する	「Play nothing for my <greeting name> greeting」
グリーティング メニューのヘルプを再生する	「Greetings Help」
暗証番号を変更する	「Change my PIN」
ディレクトリ一覧のステータスを再生する	「Get my directory listing status」
ディレクトリ リストのステータスを変更する。	「List my number in the directory」 「Do not list my number in the directory」
録音名を再生する	「Play my recorded name」
録音名を変更する	「Change my recorded name」

操作	ボイス コマンド
特定の日付の会議を再生する (一部のシステムでは使用不可)	「Play meetings on <date>」
一時的に電話のキーパッドの使用に切り替える	「Touchtone conversation」
Connection ユーザに発信する	「Call <name of user>」 「Call <extension>」
連絡先または管理者が定義した連絡先に発信する	「Call <contact name> at <home/work/mobile>」
削除済みアイテムフォルダにあるすべてのメッセージを完全に削除する	「Empty Deleted Items folder」

メッセージ送信のメニュー（ボイス コマンド）

選択コマンドについては、ボイス コマンドをオフにせずに、対応するキーを押します。利用可能なコマンドおよび対応するキーについては、Connection 管理者に問い合わせるか、「Touchtone command Help」と発音できます。

ボイスメッセージの宛先を指定し、録音が完了した後に、次のボイス コマンドを発音します。

操作	ボイス コマンド
メッセージを送信する	「Send」
録音を編集する	「Change recording」
メッセージのプロパティを確認する	「Review message properties」
受信者を編集する	「Edit recipients」
メッセージに緊急のマークを付ける	「Set urgent」
メッセージの緊急設定を解除する	「Cancel urgent」
メッセージにプライベートのマークを付ける	「Set private」
メッセージのプライベート設定を解除する	「Cancel private」
メッセージに緊急およびプライベートのマークを付ける	「Set urgent and private」
メッセージに受信確認を設定する	「Set return receipt」
メッセージ受信確認を解除する	「Cancel return receipt」
将来の日時に Connection からメッセージを配信する	「Future delivery」

操作	ボイス コマンド
将来の配信をキャンセルする	「Cancel future delivery」
受信者を追加する	「Add names」
録音されたメッセージおよびメッセージ プロパティを確認する	「Review message」

メッセージ再生中のメニュー（ボイス コマンド）

改訂：2010 年 11 月 16 日

選択コマンドについては、ボイス コマンドをオフにせずに、対応するキーを押します。利用可能なコマンドおよび対応するキーについては、Connection 管理者に問い合わせるか、「Touchtone command Help」と発音できます。

メッセージが再生されている間に、次のボイス コマンドを発音します。

操作	ボイス コマンド
最初からメッセージを再生する	「Repeat」
前のメッセージの再生	「Previous」
次のメッセージの再生	「Next」
メッセージの保存	「Save」
削除	「Delete」
返信	「Reply」
全員に返信する	「Reply all」
メッセージの転送	「Forward」
新規メッセージとして保存/復元する (一部のシステムでは使用不可)	「Mark new」
メッセージ プロパティを再生	「Message properties」
再生速度を下げる	「Slower」
音量を変更する (一部のシステムでは使用不可)	「Louder」または「Softer」
再生速度を上げる	「Faster」
メッセージの巻き戻し	「Jump back」

操作	ボイス コマンド
最後まで早送りする	「Skip forward」
一時停止/再開する	「Pause」 または 「Resume」
早送りする	「Jump ahead」
再生速度をリセットする	「Reset speed」
再生音量をリセットする	「Reset volume」
メッセージ受信者を一覧表示する（Connection 8.5 以降）	「List recipients」

会議リマインダ中のメニュー（ボイス コマンド）

選択コマンドについては、ボイス コマンドをオフにせずに、対応するキーを押します。利用可能なコマンドおよび対応するキーについては、Connection 管理者に問い合わせるか、「Touchtone command Help」と発音できます。

会議リマインダが再生されている間に、次のボイス コマンドを発音します。

操作	ボイス コマンド
会議に参加する	「Join」
参加者のリストを再生する	「List participants」
会議開催者に送信するメッセージを録音する	「Send message to organizer」
会議参加者に送信するメッセージを録音する	「Send message to participants」
次の会議リマインダに関する情報を再生する	「Next」
前の会議リマインダに関する情報を再生する	「Previous」
会議への招待を受け入れる	「Accept」
会議への招待を拒否する	「Decline」
会議をキャンセルする（会議開催者に限る）	「Cancel meeting」



（注） このメニューのボイス コマンドは、カレンダー統合を使用している場合にだけ動作します。

メッセージ再生後のメニュー（ボイス コマンド）

改訂：2010 年 11 月 16 日

選択コマンドについては、ボイス コマンドをオフにせずに、対応するキーを押します。利用可能なコマンドおよび対応するキーについては、Connection 管理者に問い合わせるか、「Touchtone command Help」と発音できます。

メッセージが再生された後に、次のボイス コマンドを発音します。

操作	ボイス コマンド
再度メッセージを再生する	「Repeat」
前のメッセージの再生	「Previous」
次のメッセージの再生	「Next」
開封済みメッセージとして保存/復元する	「Save」
削除	「Delete」
返信	「Reply」
全員に返信する	「Reply all」
元のメッセージを再送する（NDR に限る）	「Resend」
送信者を呼び出す （一部のシステムでは使用不可）	「Call sender」
メッセージの転送	「Forward」
新規メッセージとして保存/復元する （一部のシステムでは使用不可）	「Mark new」
メッセージの巻き戻し	（コマンドは利用できません）
元のメッセージを再生する（NDR に限る）	「Play original message」
メッセージプロパティを再生	「Message properties」
メッセージ受信者を一覧表示する（Connection 8.5 以降）	「List recipients」

ユニバーサル アクション（ボイス コマンド）

改訂：2010 年 11 月 16 日

選択コマンドについては、ボイス コマンドをオフにせずに、対応するキーを押します。利用可能なコマンドおよび対応するキーについては、Connection 管理者に問い合わせるか、「Touchtone command Help」と発音できます。

次のコマンドは、どの時点でも使用できます。

操作	ボイス コマンド
キャンセルまたは1つ戻る	「Cancel」
ボイス コマンドのヘルプ	「Help」
電話のキーパッドのヘルプ	「Touchtone command Help」
メイン メニューに戻る	「Main menu」
コールまたはボイスメール システムを終了する	「End call」 「Goodbye」
メッセージまたはメニュー オプションを繰り返す	「Repeat」
再生速度を変更する	「Faster」 または 「Slower」
再生音量を変更する (一部のシステムでは使用不可)	「Louder」 または 「Softer」
再生速度をデフォルト設定にリセットする	「Reset speed」
再生音量をデフォルト設定にリセットする (一部のシステムでは使用不可)	「Reset volume」
一時停止/再開する	「Pause」 または 「Resume」

ビデオメッセージと電話メニュー

音声メッセージだけでなく、電話メニューを使用してビデオメッセージを再生または録音することもできます。ただし、ビデオメッセージの動作は、次のメニューによって異なります。

電話メニュー (Phone Menu)	ビデオメッセージの動作
再生速度を下げる	最初から同じスピードでビデオメッセージの再生を開始します。
音量を変更する	最初から同じ音量でビデオメッセージの再生を開始します。
再生速度を上げる	最初から同じスピードでビデオメッセージの再生を開始します。
速度をデフォルトに戻す (Reset Speed to Default)	最初から同じスピードでビデオメッセージの再生を開始します。
再生音量を下げる (Quieter Playback)	最初から同じ音量でビデオメッセージの再生を開始します。

電話メニュー (Phone Menu)	ビデオメッセージの動作
標準音量にリセット (Reset Volume to Default)	最初から同じ音量でビデオメッセージの再生を開始します。
再生音量を上げる	最初から同じ音量でビデオメッセージの再生を開始します。
巻き戻す	ビデオメッセージの再生を最初から開始します。
[一時停止 (Pause)] または [再開 (Resume)]	ビデオメッセージを一時停止することができますが、[再開] を選択すると、メッセージの再生が開始されます。
早送りする	このオプションを選択すると、[メッセージの後] メニューの再生がすぐに開始されます。
メッセージ添付ファイルを再生 (Play Message Attachments)	メッセージの添付ファイルの音声部分のみを再生します。
メッセージの転送	ビデオメッセージの音声部分のみが受信者に転送されます。
元のメッセージを転送する (Forward Original Message)	ビデオメッセージの音声部分のみが、受信者に添付されて転送されます。
返信	ビデオメッセージに音声形式でのみ返信することができます。
全員に返信する	すべての受信者へのビデオメッセージへの返信を、音声形式でのみ行うことができます。



第 22 章

ビデオメッセージの管理

ボイスメッセージと同様に、応答しない場合に、Unity Connection を使用して他のユーザにビデオメッセージを送信または受信することもできます (RNA)。

ビデオメッセージの返信または転送中は、メッセージは音声メッセージとしてのみ送信されます。音声メッセージの返信または転送の詳細とメッセージの基本的な情報については、「[ボイスメールの基本](#)」の章を参照してください。

- [ビデオメッセージの送信](#) (123 ページ)
- [ビデオメッセージの確認](#) (124 ページ)

ビデオメッセージの送信

また、呼出音に応答しない場合 (RNA)、特定されたユーザまたは識別できないユーザのビデオメッセージを録音することもできます。コールに応答しない場合は、コールされたユーザからグリーティング (標準またはビデオ) を受信します。グリーティングを再生した後、コールされたユーザのビデオメッセージを録音できます。ボイスメッセージとは異なり、ユーザの内線番号をダイヤルせずにビデオメッセージを送信することはできません。ビデオメッセージは、RNA の場合にのみ送信できます。

ビデオメッセージがコール先のユーザに配信されない場合、そのユーザにメッセージの音声部分が添付された配信不能通知 (NDR) を受信します。配信されないメッセージを音声形式で再送信できます。



- (注) ビデオメッセージの録音中に、Unity Connection と MediaSense 間の通信が失われると、そのコールは音声に変換されます。MediaSense からの応答がないためにビデオコールが音声に変換された場合、ビデオとして再度復元することはできません。

電話のキーパッドを使用したビデオメッセージの送信

ステップ 1 ユーザ内線番号をダイヤルします。 .

ユーザがコールに応答しない場合は、標準グリーティングまたはビデオグリーティングが再生されます

ステップ 2 トーンの後にビデオメッセージを録音します。

ステップ 3 プロンプトの指示に従って、ビデオメッセージを再生、再録音、または送信します。

録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押します。

(注) 音声コマンドを使用したビデオメッセージの送信はサポートされていません。

ビデオメッセージの確認

電話機を使用して、Cisco Unity Connection メールボックスでの新規および保存されたビデオメッセージを音声メッセージと一緒に確認または再生できます。ビデオメッセージの再生中は、いつでも録音を一時停止できますが、一時停止されている時点から録音が再開されることはありません。これは、最初から再生されます。メッセージは、メッセージの再生中に、またはビデオメッセージ全体を聞き終えた後で保存や削除もできます。

Unity Connection でメッセージの録音の期限ポリシーが適用されていない場合、ビデオメッセージはメールボックスに永続的に保存されます。ただし、ポリシーが適用されている場合、ビデオメッセージは指定された日数の経過後に期限切れになります。ビデオメッセージの期限が切れると、メッセージの音声部分だけがボイスメッセージとしてメールボックスに保存されます。



(注) ビデオメッセージの再生中に、電話機の[音量]ボタンを使用して再生音量または再生速度を変更できます。電話機を使用した再生音量または再生速度の変更音量や速度を変更せずに録音を開始するには、[電話機のカスタムキーパッド]を使用します。

電話のキーパッドを使用したビデオメッセージの送信

ステップ 1 ユーザ内線番号をダイヤルします。

ユーザがコールに応答しない場合は、標準グリーティングまたはビデオグリーティングが再生されます

ステップ 2 トーンの後にビデオメッセージを録音します。

ステップ 3 プロンプトの指示に従って、ビデオメッセージを再生、再録音、または送信します。

録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押します。

(注) 音声コマンドを使用したビデオメッセージの送信はサポートされていません。



索引

C

Cisco Unified MeetingPlace での即時会議の開始 [37](#)
Connection へのアクセス [7](#)
Connection へのコール [7](#)
Connection へのサインイン [7](#)
Connection へのすべての着信の転送のキャンセル [79](#)

N

NDR。参照先： 不達受信確認

P

Phone View オプション [20](#)
PIN、変更 [59](#)

あ

アドレス指定優先順位リスト [57](#)
 概要 [57](#)
 変更 [57](#)

お

オフ [42–43, 47](#)
 オプショングリーンティング [42](#)
 グリーンティング [43](#)
 デバイスへの通知 [47](#)
オプション グリーンティング [40](#)
 概要 [40](#)
オプションカンバセーション 1、電話メニューとショートカット [101](#)
オプショングリーンティング [42](#)
 オンまたはオフ [42](#)
オプション転送ルール、説明 [67](#)
オン [42–43, 47](#)
 オプショングリーンティング [42](#)
 グリーンティング [43](#)
 デバイスへの通知 [47](#)

か

カレンダー [35](#)
 会議の管理、概要 [35](#)
 予定されている会議の一覧表示 [35](#)

く

クラシックカンバセーション、電話メニューとショートカット [96](#)
グリーンティング [39–43, 45](#)
 オプション [40](#)
 オプション、グリーンティングのオンまたはオフ [42](#)
 オンまたはオフ [43](#)
 システム、概要 [43](#)
 すべて再生 [45](#)
 デフォルト以外の言語での録音 [45](#)
 概要 [39](#)
 現在の再録音 [41](#)
 時間外 [39](#)
 祝日 [40](#)
 通話中 [40](#)
 内線 [40](#)
 内容 [43](#)
 内容の変更 [43](#)
 標準 [39](#)
 複数の言語の管理 [39](#)
 録音 [43](#)
グリーンティングのソース [43](#)

こ

コール [33, 67, 79, 123–124](#)
 Connection にすべて転送 [79](#)
 Connection へのすべての転送のキャンセル [79](#)
 ボイスコマンドを使用して発信 [33, 123–124](#)
 間接的、概要 [67](#)
 直接的、概要 [67](#)

し

- システム グリーティング、説明 43
- ショートカット 91, 96, 101, 106, 108, 111
 - オプションカンパセーション 1 101
 - クラシックカンパセーション 96
 - 代行キーパッドマッピング (N) 106
 - 代行キーパッドマッピング (S) 111
 - 代行キーパッドマッピング (X) 108
 - 標準カンパセーション 91

す

- スピード 84
 - 再生、個々のメッセージの変更 84
- すべてのグリーティングの再生 45

ち

- チェック 10, 26
 - メッセージ 10
 - 削除されたメッセージ 26

て

- ディスパッチメッセージ 29
 - 応答 29
 - 概要 29
- ディレクトリ、登録ステータスの変更 61

は

- パーソナル着信転送ルールの設定 73-75
 - 概要 73
 - 基本転送ルールにおける有効化および無効化 73
 - 個々の有効化および無効化 75
 - 使用の有効化および無効化 74

ふ

- プライベートリスト 54
 - 録音名の変更 54
- プライベート同報リスト 51, 53, 55
 - メンバーの変更 53
 - リモート連絡先の追加 53
 - 作成 51
 - 削除 55
 - 説明 51
- プライベート同報リストのメンバーの確認 53
- プライベート同報リストの作成 51

- ブロードキャストメッセージ、概要 87
- プロンプト、概要 3

ほ

- ボイス コマンド 4
 - チュートリアル 4
- ボイス コマンドによる電話の発信、説明 33
- ボイス コマンドのチュートリアル 4
- ボイスコマンド 33, 114, 123-124
 - リスト 114
 - 電話の発信 33, 123-124
- ボイスコマンドを使用した電話の発信 33, 123-124
- ボイスメッセージ 8
 - 送信 8
- ボイスメッセージの送信 8

め

- メールボックス 89
 - サイズ、概要 89
 - 一杯になってしまう理由 89
 - 一杯の通知 89
- メッセージ 10, 13-14, 19-20, 23, 25-26, 29, 83-84, 87
 - Phone View オプションを使用した検索 20
 - チェック 10
 - ディスパッチへの応答 29
 - ブロードキャスト、概要 87
 - メッセージ ジャンプ オプションを使用した検索 23
 - メッセージ ロケータ オプションを使用した検索 19
 - 完全削除 25
 - 個々の再生音量の変更 83
 - 個々の再生速度の変更 84
 - 削除 25
 - 削除済みメッセージの確認 26
 - 転送 14
 - 返信 13
 - メッセージ ジャンプ オプション 23
 - メッセージ ロケータ オプション 19
 - メッセージの検索 19-20, 23
 - Phone View オプション 20
 - メッセージ ジャンプ オプション 23
 - メッセージ ロケータ オプション 19
 - 概要 19
 - メッセージへの返信 13
 - メッセージ保存ポリシー、メールボックスのサイズに対する影響 89
 - メニュースタイル、変更 65

ゆ

ユーザー、登録 [2](#)

ユーザーとしての登録 [2](#)

ユーザー設定 [59–61](#)

PIN、変更 [59](#)

ディレクトリ登録ステータス、変更 [61](#)

概要 [59](#)

録音名、変更 [60](#)

り

リスト [35](#)

予定されている会議 [35](#)

リモート連絡先、プライベート同報リストへの追加 [53](#)

る

ルール設定。参照先：[パーソナル着信転送ルールの設定](#)

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。